

図 8.6 全亜鉛測定地点 (山国川)

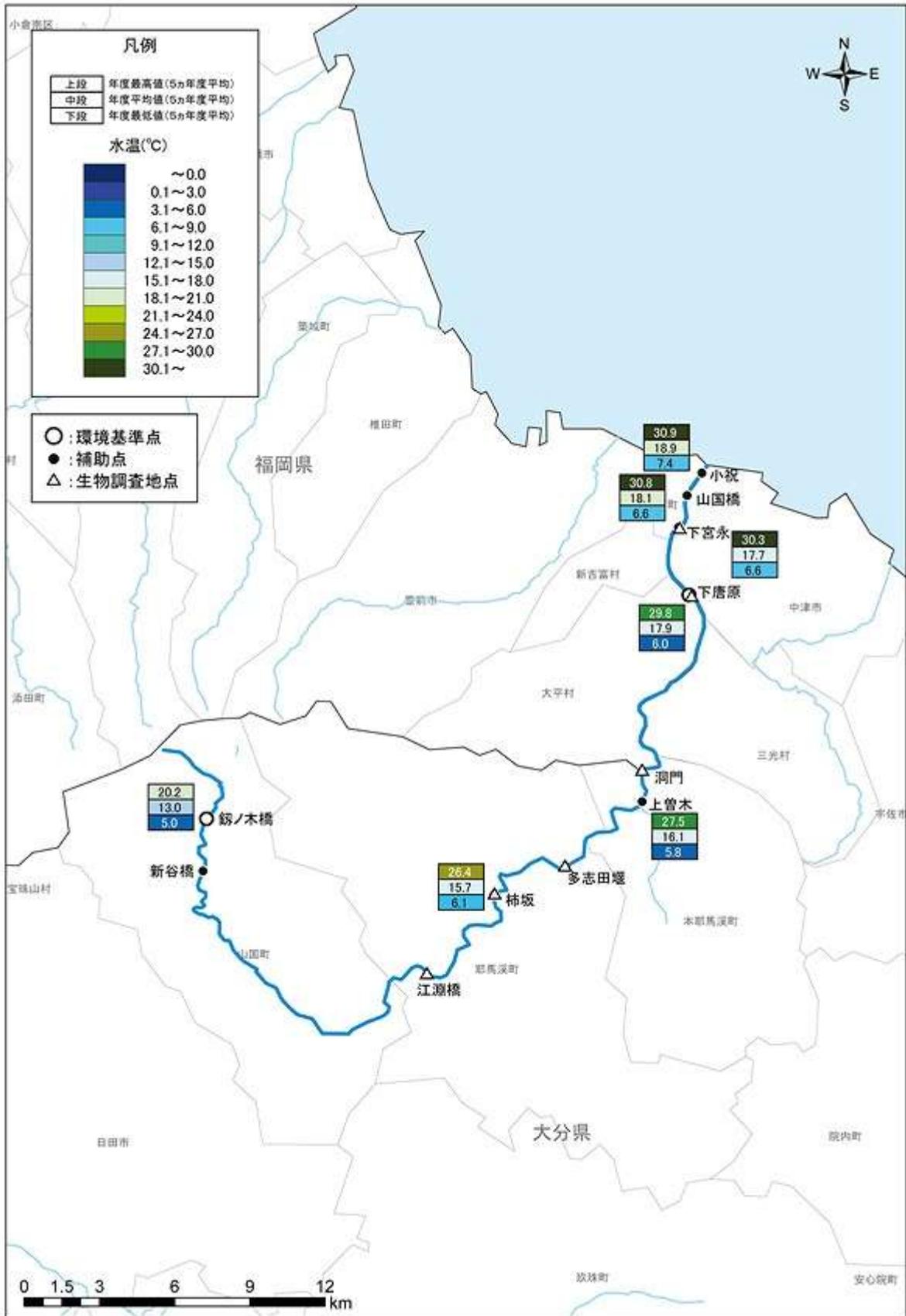
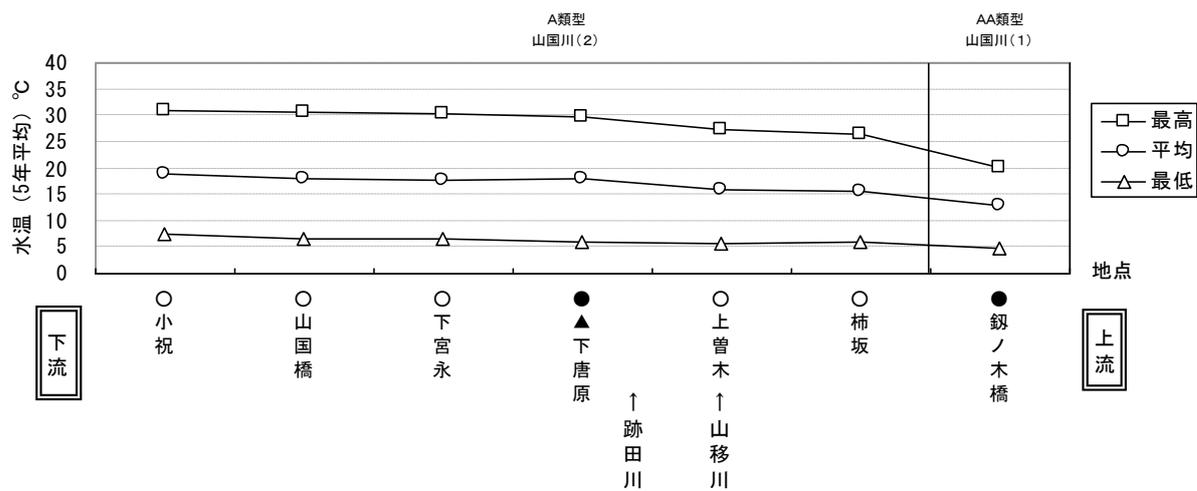


图 8.8 水温(山国川)



※最高・平均・最低は、平成14～18年度の公共用水域水質測定結果より、各年度の月平均水温の年最高値・年平均値・年最低値を求め、それぞれ5ヵ年平均した値である。一部で月1回以上の頻度で計測していない地点がある。

地点：環境基準点（●）・補助点（○）・流量測定点（▲/△）

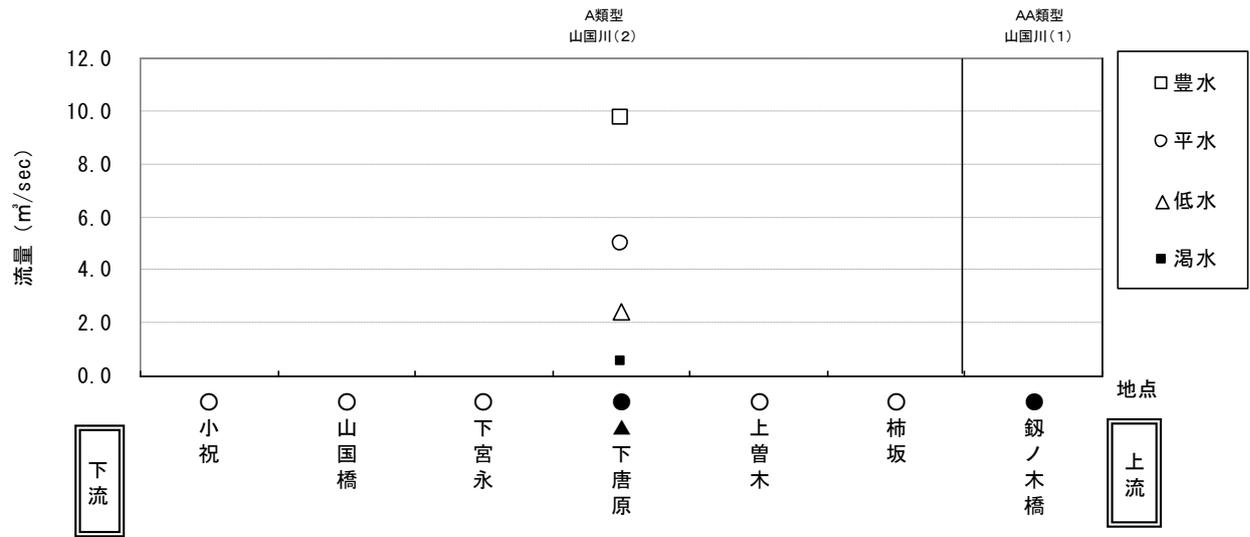
出典：公共用水域の水質測定結果

図 8.9 水温縦断分布(山国川)



国土交通省 平成8年度「山国川・大野川新河道計画検討業務報告書」より
 □：環境省調査（平成14年度漁業協同組合へのアンケート結果）より

図 8.10 河床材料(山国川)



地点：環境基準点 (●) ・補助点 (○) ・流量測定点 (▲/△)

出典：流量年表(国土交通省河川局編, H14)

図 8.11 流量の縦断分布(山国川)

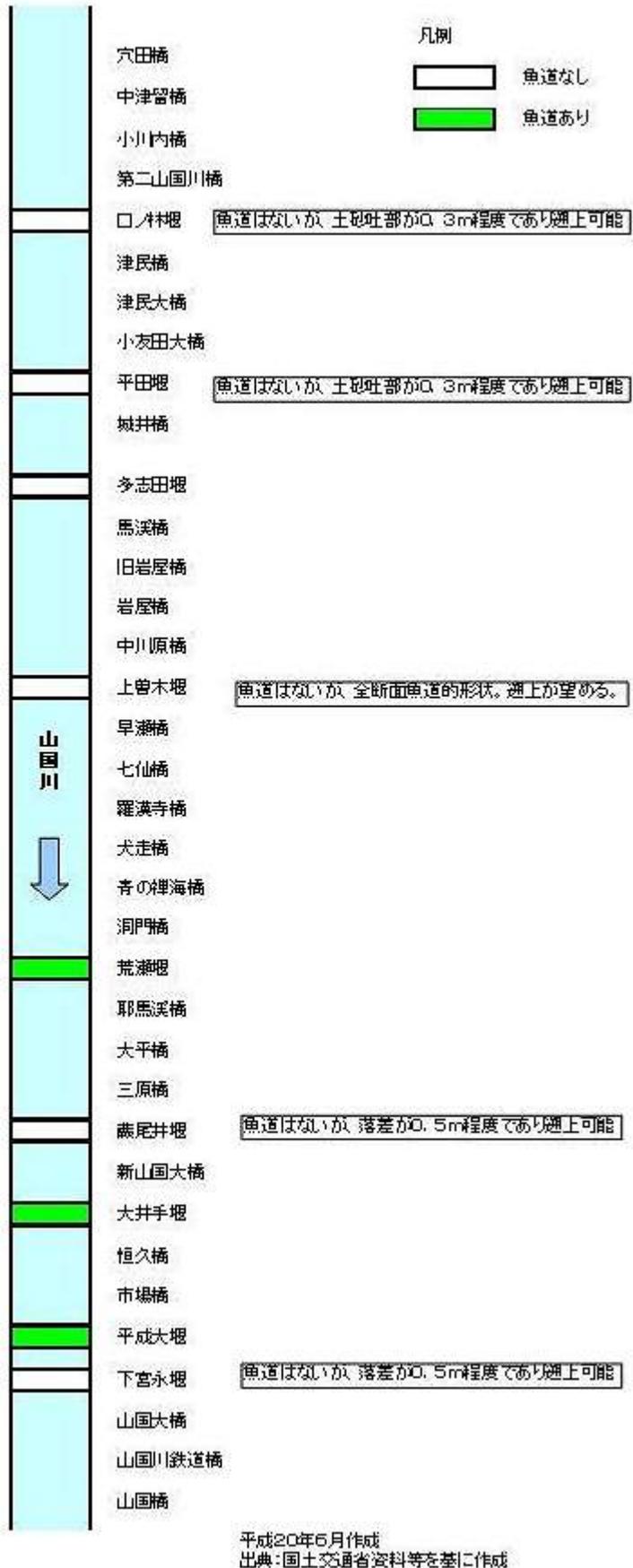
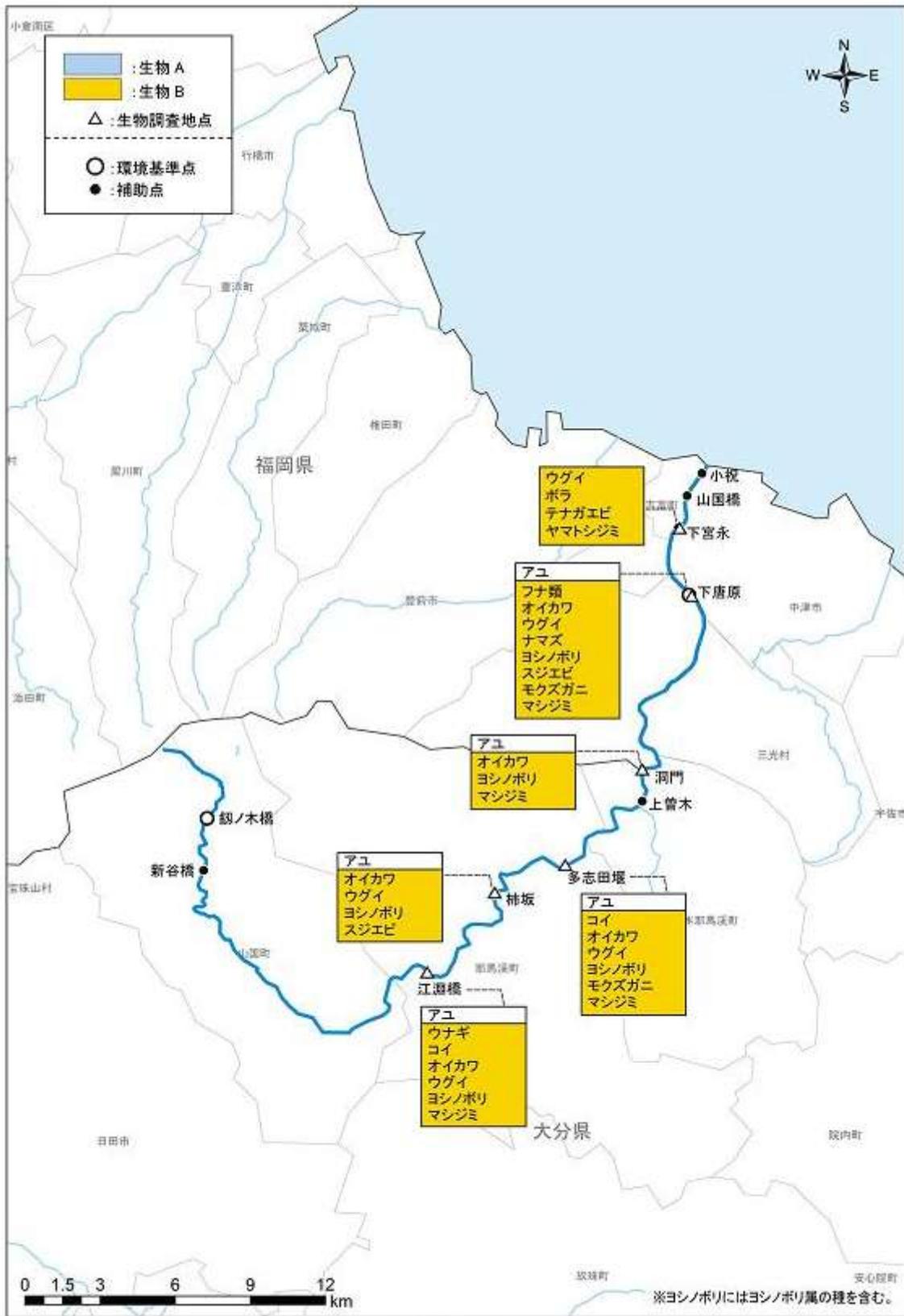


図 8.12 主な河川横断工作物(山国川)



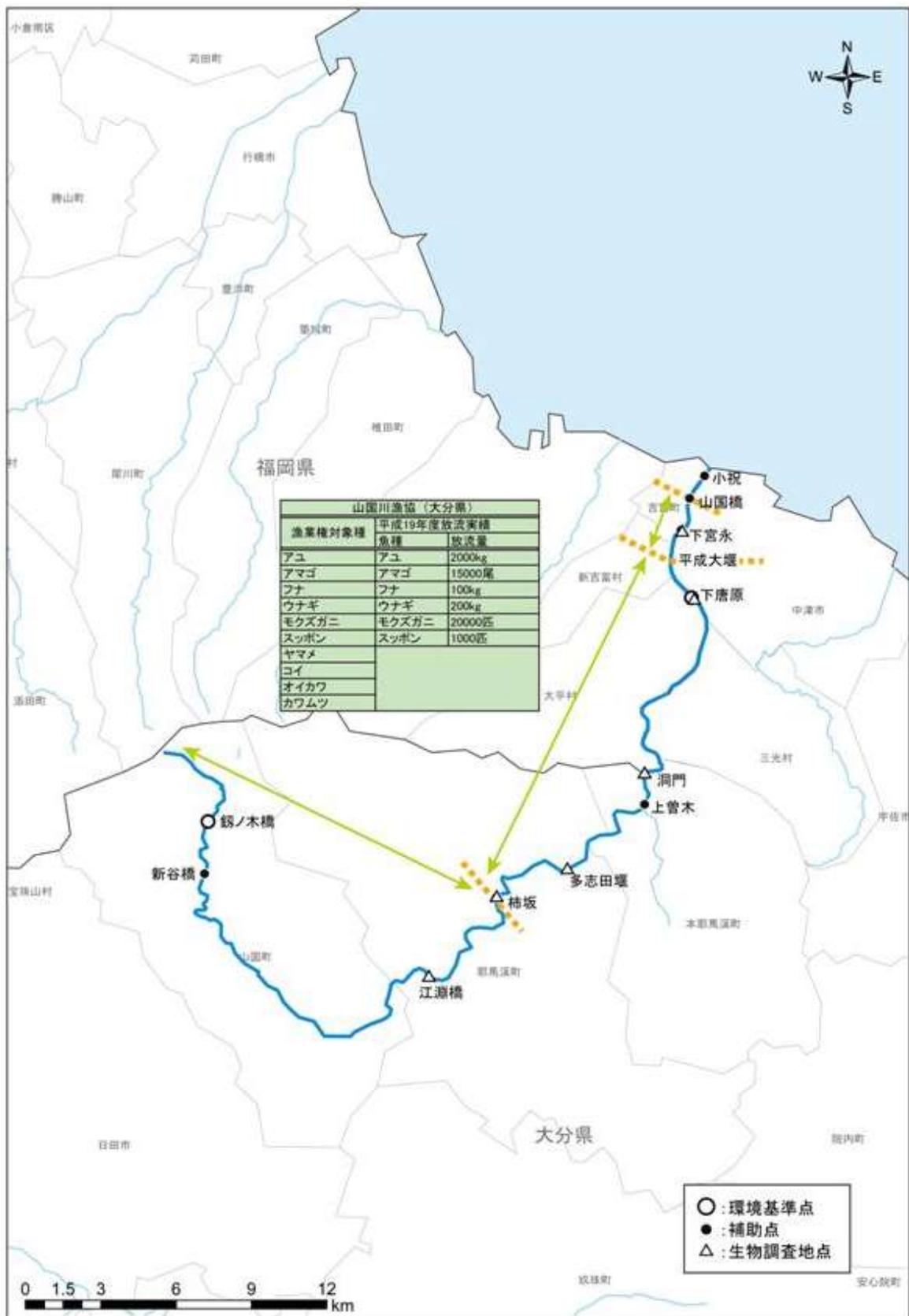
国土交通省 平成14年度「河川水辺の国勢調査」(山国川)より

図 8.13 主要魚介類の確認状況(山国川)

表 8.2(1) 魚介類の確認状況（既存調査結果）(山国川)

項目・分類・科・種名				調査地点							
				1	2	3	4	5	6		
				下宮永	下唐原	洞門	多志田堰	柿坂	江淵橋		
出典・調査時期				国土交通省 河川水辺国勢調査							
				平成14年度(8月・10月)	平成14年度(8月・10月)	平成14年度(8月・10月)	平成14年度(8月・10月)	平成14年度(8月・10月)	平成14年度(8月・10月)		
生物A (その他)	魚類	キュウリウオ科	アユ		○	○	○	○	○		
生物B	魚類	ウナギ科	ウナギ						○		
		コイ科	コイ				○		○		
		コイ科	フナ類(ギンブナ)				○				
		コイ科	オイカワ		○	○	○	○	○		
		コイ科	ウグイ	○	○		○	○	○		
		ナマズ科	ナマズ		○						
		ボラ科	ボラ	○							
		ハゼ科	ヨシノボリ類(シマヨシノボリ)		○	○	○				
		ハゼ科	ヨシノボリ類(オオヨシノボリ)				○	○	○		
		ハゼ科	ヨシノボリ類(トウヨシノボリ)		○	○	○	○			
	ハゼ科	ヨシノボリ類(カワヨシノボリ)		○	○	○	○	○			
	甲殻類	テナガエビ科	テナガエビ	○							
		テナガエビ科	スジエビ		○			○			
		イワガニ科	モクズガニ		○		○				
	貝類	シジミ科	ヤマトシジミ	○							
シジミ科		マジジミ		○	○	○		○			
その他	魚類	ニシン科	サツパ	○							
		コノシロ科	コノシロ	○							
		コイ科	アブラボテ		○	○			○		
		コイ科	タイリクバラタナゴ		○						
		コイ科	カワムツ		○	○	○	○	○		
		コイ科	モツゴ		○						
		コイ科	ムギツク		○	○	○	○	○		
		コイ科	カマツカ		○	○	○	○	○		
		コイ科	イトモロコ		○	○			○		
		ギギ科	ギギ		○	○	○	○	○		
		コチ科	コチ(マゴチ)	○							
		スズキ科	スズキ	○							
		サンフィッシュ科	ブルーギル					○			
		ヒイラギ科	ヒイラギ	○							
		タイ科	クロダイ	○							
		ボラ科	メナダ	○							
		その他	魚類	ハゼ科	ドンコ		○	○	○	○	○
				ハゼ科	ビリンゴ	○					
ハゼ科	ウロハゼ			○							
ハゼ科	マハゼ			○							
ハゼ科	アベハゼ			○							
ハゼ科	Rhinogobius属の一種				○	○		○	○		
ハゼ科	ヌマチチブ			○							
ハゼ科	チチブ			○							
ハゼ科	チチブ(Tridentiger)属の一種			○							
タイワンドジョウ科	カムルチー				○						
甲殻類	クルマエビ科			ヨシエビ	○						
	テナガエビ科			スジエビモドキ	○						
	ヌマエビ科	ミナミヌマエビ		○	○	○	○	○			
	イワガニ科	ケフサイソガニ	○								
	サワガニ科	サワガニ				○		○			
貝類	アマオブネガイ科	イシマキガイ	○	○							
	カワニナ科	カワニナ	○	○	○	○	○	○			
	サカマキガイ科	サカマキガイ				○					

出典：国土交通省H14年度河川水辺の国勢調査



出典: 大分県資料・平成18年度ヒアリング調査・平成19年度ヒアリング調査より

図 8.14 漁業権設定・魚類等放流状況(山国川)

表 8.3 魚介類生息状況に関する学識者や漁業関係者へのヒアリング結果の整理(山国川)

項目	ヒアリング結果(回答機関名)
	全域
魚介類の生息範囲	<ul style="list-style-type: none"> ・代表的及び特徴的な魚介類として、アユがあげられる(山国川漁協)。 ・イワナ・アマゴ類は大曲橋付近より上流側に生息している(山国川漁協)。 ・コイ・フナ類は大曲橋付近より下流側に生息している(山国川漁協)。
産卵場・幼稚仔魚の生育場	<ul style="list-style-type: none"> ・流域全体が産卵場所になっている。特に平成大堰下流、下宮永堰(汐止め堰)下流がアユの産卵場となっている(山国川漁協)。 ・耶馬溪ダム上流がアユ、スッポン等の産卵場となっている(山国川漁協)。
魚介類等資源の保全	<ul style="list-style-type: none"> ・アユ、モクズガニ、アマゴ、フナ、ウナギ、スッポン、コイ等を放流している(山国川漁協)。
河川環境	<ul style="list-style-type: none"> ・堰が多数あり、魚道が設置されている堰もあるが、その効果があまりみられない(山国川漁協)。

9. 筑後川・宝満川

(1) 水域の概況

筑後川は、その源を熊本県阿蘇郡瀬の本高原に発し、高峻な山岳地帯を流下して、日田市において、くじゅう連山から流れ下る玖珠川を合わせ典型的な山間盆地を流下し、その後、再び峡谷を過ぎ、佐田川、小石原川、巨瀬川等多くの支川を合わせ、肥沃な筑紫平野を貫流し、さらに、早津江川を分派して、有明海に注ぐ、幹川流路延長143km、流域面積2,863km²の九州最大の一級河川である。

宝満川は、筑紫野市山林に発し、夜須町・小郡市を貫流し、途中佐賀県を流れ、久留米市にて筑後川へ合流する一級河川である。

(2) 水質の状況

1) 水域類型指定状況（図 9.1）

既存生活環境項目（BOD・COD・全窒素・全リン等の水生生物保全環境基準を除く項目）の水域類型指定状況について、筑後川を見ると、筑後川（1）・筑後川（2）・筑後川（3）の3区域に分けられ、筑後川（1）はAA類型、筑後川（2）はA類型、筑後川（3）はB類型に指定されている。上流の松原ダム貯水池は湖沼A類型・窒素リンⅢ類型が当てはめられている。また、宝満川について見ると、宝満川（1）・宝満川（2）の2区域に分けられ、宝満川（1）はA類型、宝満川（2）はB類型に指定されている。

2) 水質汚濁の状況（表 9.1、図 9.2～図 9.4）

筑後川のBOD75%値を見ると、上流の杖立から中流の神代橋まで1.0mg/L前後で分布しており、環境基準を達成している。久留米大橋より下流は宝満川が合流し、干潮域となっており、水質の変動が大きくなるが、環境基準は満足している。

宝満川のBOD75%値を上流から見ると、岩本橋では1.0mg/L前後を示すが、その下流では地点間・年度間の変動が大きく、鬼河原橋・端間堰では環境基準を超過する年度もある。

3) 亜鉛の水質の状況（図 9.5～図 9.7）

筑後川の全亜鉛を上流から見ると、下流の六五郎橋でやや高い値を示すが、概ね0.005～0.01mg/Lの範囲で推移している。釧ノ木橋で0.01mg/Lとなっているが、その下流域は0.005mg/L以下となっている。

宝満川の全亜鉛を上流から見ると、上流・岩本橋では0.01mg/L、最下流の下野ではやや高くなるが、0.002mg/L以下であった。

(3) 水温の状況（図 9.8、図 9.9）

筑後川の水温を上流から見ると、最上流の杖立で平均水温が15℃程度、平均最高水温が26℃程度で、中流の荒瀬で平均水温が17℃前後、平均最高が26℃程度で、最下流の若津で平均水温が18℃前後、平均最高水温が30℃程度となっている。

宝満川の水温を上流から見ると、最上流の岩本橋で平均水温が16℃前後、平均最高が26℃程度で、中流の楠木橋付近では平均水温が20℃前後、平均最高水温が30℃前後に達するが、最下流の下野では平均水温18℃、平均水温29℃程度となっている。

(4) 水域の構造等

1) 河床材料 (図 9.10)

筑後川の河床材料は、上流の坂本・上田～小淵までが岩・石・礫、小淵～宝満川合流点までが礫・砂、宝満川合流点～河口までは砂・泥が主体となっている。

宝満川の河床材料は、岩本橋から筑後川合流点までは砂・泥が主体となっている。

2) 流量 (図 9.11)

流量は小平等6箇所測定しており、低水流量は小平で約5m³/日、小淵で15 m³/日、荒瀬・恵蘇ノ宿で30 m³/日、片野瀬で約28 m³/日、瀬の下で約40 m³/日となっている。

3) 主な河川構造物 (図 9.12)

筑後川におけるダムとしては松原ダム・夜明ダムが設けられている（支流に大山川ダムあり）。堰としては上流から手先用水堰・小島井堰・三隅堰・大石堰・山田堰・恵利堰・小山野床固・筑後大堰・坂口床固があり、手先用水堰・三隅堰・大石堰・恵利堰・小山野床固・筑後大堰には魚道が設置されている。

宝満川における堰としては西福童堰・上西井堰・下野堰があり、いずれにも魚道は設置されていない。

(5) 魚介類の生息状況 (表 9.2、表 9.3、図 9.13、図 9.14)

1) 冷水性の魚介類

(a) 基礎情報

筑後川においては、河川水辺の国勢調査等によると、築瀬においてニジマスが出現しており、その他の冷水性魚種は確認されていないが、管轄漁協へのヒアリング結果によると最上流域の熊本県小国町の源流域（宇土橋付近から上流）にイワナ・ヤマメ類が生息しているとの情報がある。

宝満川において冷水性魚類は確認されていない

(b) ヒアリング情報

表9.3のとおりとする。

2) 温水性の魚介類

(a) 基礎情報

筑後川においては、温水性の魚介類は全般的にコイ・フナ類・オイカワ・ウグイ・ヨシノボリ・ウナギ等が確認されている。また、宇土橋から恵利堰の間でアユが確認されている。

宝満川においては、全般的にフナ類・オイカワ・ヨシノボリ等が確認されている。

(b) ヒアリング情報

表9.3のとおりとする。

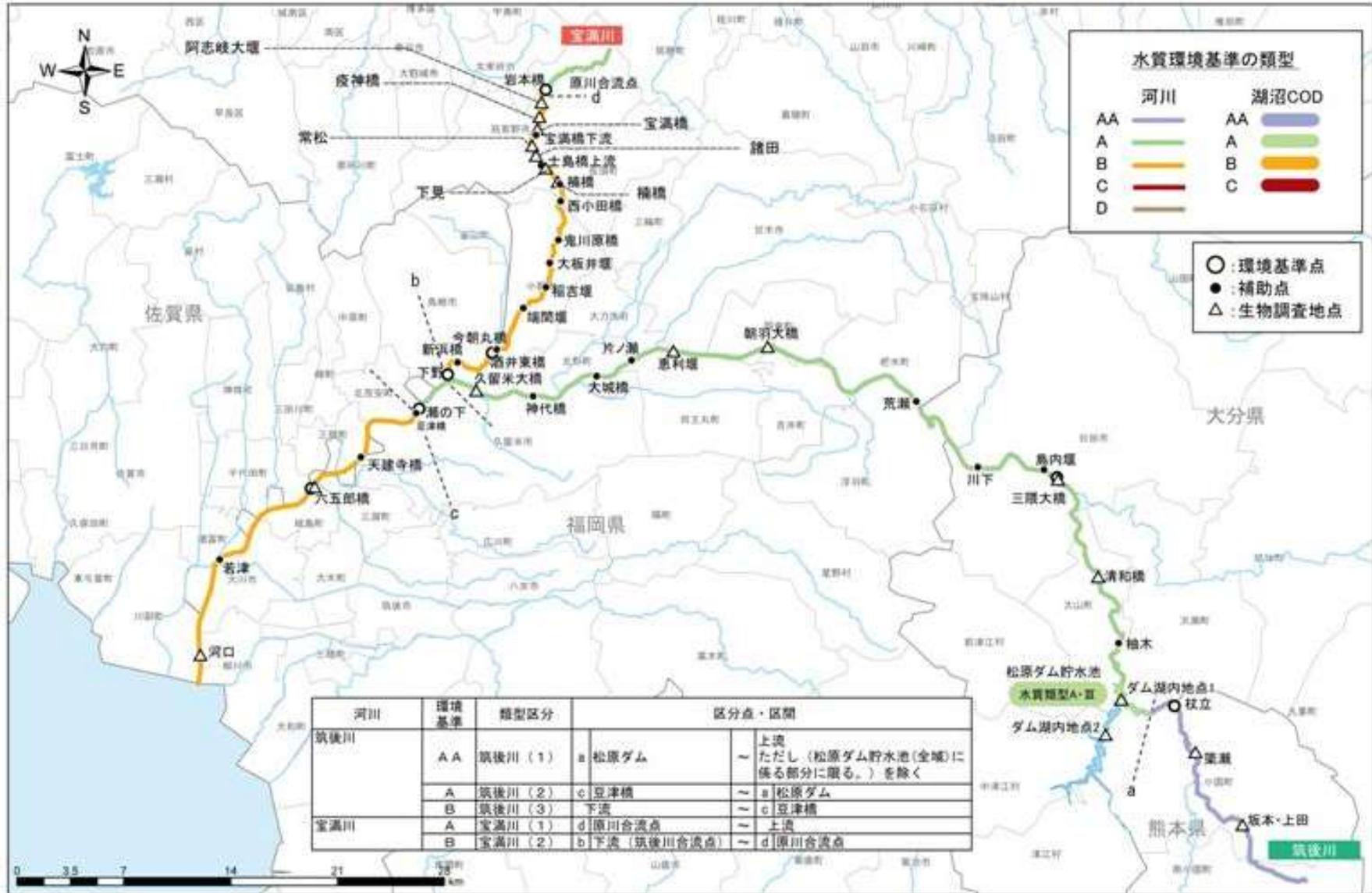
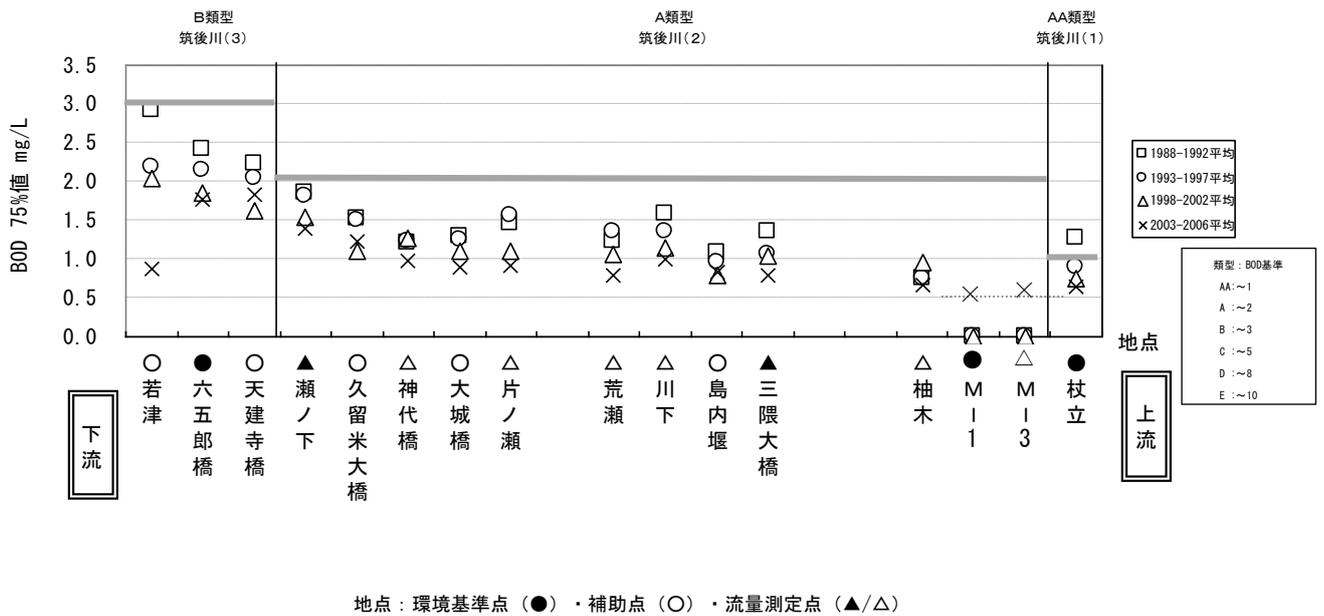


図 9.1 水質汚濁に係る環境基準の類型指定状況(筑後川・宝満川)

表 9.1(2) 近年の水質の状況（宝満川）

水域	類型	環境基準点	年度	BOD(mg/L)					pH			DO(mg/L)				SS(mg/L)				大腸菌群数(MPN/100mL)			
				最小値	最大値	平均値	75%値	基準	最小値	最大値	基準	最小値	最大値	平均値	基準	最小値	最大値	平均値	基準	最小値	最大値	平均値	基準
宝満川（1）	A	岩本橋	H16	< 0.5	1.4	0.9	1.1	2	7.0	8.3	6.5~8.5	8.5	12.0	9.8	7.5	< 1	36	8	25	13,000	13,000	13,000	1,000
			H17	< 0.5	2.1	0.9	0.8		6.3	8.1		7.9	13.0	11.0		< 1	4	2		11,000	11,000	11,000	
			H18	< 0.5	1.4	0.7	0.9		7.1	8.3		9.1	13.0	10.0		< 1	11	3		11,000	11,000	11,000	
宝満川（1）	A	岩本橋	H16	< 0.5	1.2	0.9	1.0	2	7.6	7.7	6.5~8.5	8.7	12.0	10.0	7.5	< 2	100	27	25	3,300	24,000	12,000	1,000
			H17	0.6	1.4	0.9	0.8		7.6	7.7		8.6	11.0	10.0		< 2	< 2	< 2		1,700	22,000	11,000	
			H18	< 0.5	1.8	0.9	0.7		7.5	8.5		9.5	14.0	11.0		< 2	4	3		790	14,000	5,100	
宝満川（2）	B	宝満橋下流	H16	< 0.5	1.5	1.1	1.3	3	7.3	7.6	6.5~8.5	7.2	12.0	10.0	5	< 2	7	5	25	490	17,000	8,400	5,000
			H17	0.6	1.7	1.2	1.6		7.5	7.7		4.9	11.0	9.0		< 2	5	4		1,700	130,000	35,000	
			H18	0.5	2.0	1.2	1.7		7.4	7.8		8.5	13.0	10.0		< 2	20	9		2,300	49,000	20,000	
宝満川（2）	B	士島橋上流	H16	1.0	3.3	1.9	1.7	3	7.5	8.5	6.5~8.5	9.2	13.0	11.0	5	< 2	7	5	25	230	13,000	5,900	5,000
			H17	1.4	4.0	2.5	2.6		7.5	9.3		9.4	16.0	11.0		2	6	5		79	490	230	
			H18	0.7	1.3	1.1	1.2		7.5	7.8		7.9	11.0	9.4		< 2	5	3		700	7,000	3,700	
宝満川（2）	B	楠橋	H16	0.5	3.1	1.9	2.2	3	7.6	8.0	6.5~8.5	9.8	13.0	11.0	5	< 2	7	5	25	460	4,900	2,900	5,000
			H17	1.2	3.5	2.1	2.1		8.1	8.6		11.0	15.0	13.0		< 2	6	3		170	4,900	1,800	
			H18	< 0.5	1.5	1.0	1.2		7.5	7.9		8.3	14.0	11.0		< 2	5	3		350	7,900	4,900	
宝満川（2）	B	西小田橋	H16	0.7	1.5	1.0	1.0	3	7.2	7.9	6.5~8.5	7.9	12.0	9.9	5	2	21	9	25	17,000	35,000	23,000	5,000
			H17	0.6	2.2	1.6	2.2		7.3	8.7		7.5	13.0	10.0		2	7	5		1,700	92,000	25,000	
			H18	—	—	—	—		—	—		—	—	—		—	—	—		—	—	—	
宝満川（2）	B	鬼川原橋	H16	1.5	3.8	2.3	2.5	3	7.2	7.8	6.5~8.5	7.8	13.0	9.7	5	< 1	33	6	25	7,900	7,900	7,900	5,000
			H17	1.3	6.5	2.9	3.6		7.0	8.1		6.9	13.0	9.7		1	10	5		33,000	33,000	33,000	
			H18	1.1	4.4	2.3	2.6		7.0	7.7		7.2	10.0	9.1		< 2	54	10		330	330	330	
宝満川（2）	B	大板井堰	H16	0.7	1.5	1.0	1.2	3	7.2	7.6	6.5~8.5	7.2	10.0	9.0	5	2	13	7	25	7,900	54,000	23,000	5,000
			H17	1.0	3.0	2.1	2.3		7.3	7.6		7.0	10.0	8.7		5	7	6		330	54,000	15,000	
			H18	—	—	—	—		—	—		—	—	—		—	—	—		—	—	—	
宝満川（2）	B	稻吉堰	H16	0.6	2.4	1.5	1.7	3	7.3	7.5	6.5~8.5	8.2	10.0	9.0	5	5	21	12	25	7,000	35,000	23,000	5,000
			H17	0.8	2.9	1.8	2.2		7.3	8.3		7.9	10.0	9.5		3	10	8		1,300	92,000	24,000	
			H18	—	—	—	—		—	—		—	—	—		—	—	—		—	—	—	
宝満川（2）	B	端間堰	H16	0.7	2.2	1.4	1.7	3	7.4	7.6	6.5~8.5	8.1	10.0	9.2	5	4	16	10	25	4,900	35,000	16,000	5,000
			H17	0.8	5.0	2.5	3.2		7.5	9.1		8.8	14.0	11.0		5	14	11		490	17,000	5,400	
			H18	—	—	—	—		—	—		—	—	—		—	—	—		—	—	—	
宝満川（2）	B	今朝丸橋	H16	0.8	2.1	1.4	1.8	3	7.1	7.5	6.5~8.5	8.0	10.0	9.1	5	6	19	13	25	7,900	54,000	33,000	5,000
			H17	0.7	5.9	2.6	2.6		7.4	8.3		8.3	14.0	10.0		5	16	9		1,300	24,000	7,900	
			H18	—	—	—	—		—	—		—	—	—		—	—	—		—	—	—	
宝満川（2）	B	酒井東橋	H16	0.6	2.8	1.6	2.1	3	7.1	7.5	6.5~8.5	6.1	12.0	9.0	5	5	28	14	25	4,900	160,000	66,000	5,000
			H17	0.8	4.2	2.1	2.8		7.1	7.9		8.4	13.0	9.9		4	17	10		3,300	160,000	67,000	
			H18	0.7	3.5	1.5	1.7		7.3	8.4		8.3	11.0	9.8		4	14	9		3,300	92,000	38,000	
宝満川（2）	B	新浜橋	H16	< 0.5	3.4	1.4	1.7	3	7.3	7.8	6.5~8.5	8.1	12.0	9.5	5	4	16	10	25	14,000	54,000	34,000	5,000
			H17	—	—	—	—		—	—		—	—	—		—	—	—		—	—	—	
			H18	—	—	—	—		—	—		—	—	—		—	—	—		—	—	—	
宝満川（2）	B	下野	H16	< 0.5	5.6	1.9	1.9	3	7.1	8.3	6.5~8.5	7.4	11.0	9.2	5	6	32	16	25	3,300	92,000	45,000	5,000
			H17	1.0	4.9	2.2	2.6		7.2	8.9		7.5	14.0	10.0		3	22	10		13,000	35,000	24,000	
			H18	0.5	3.2	1.2	1.1		7.2	8.2		7.5	12.0	9.4		3	24	10		790	11,000	5,900	

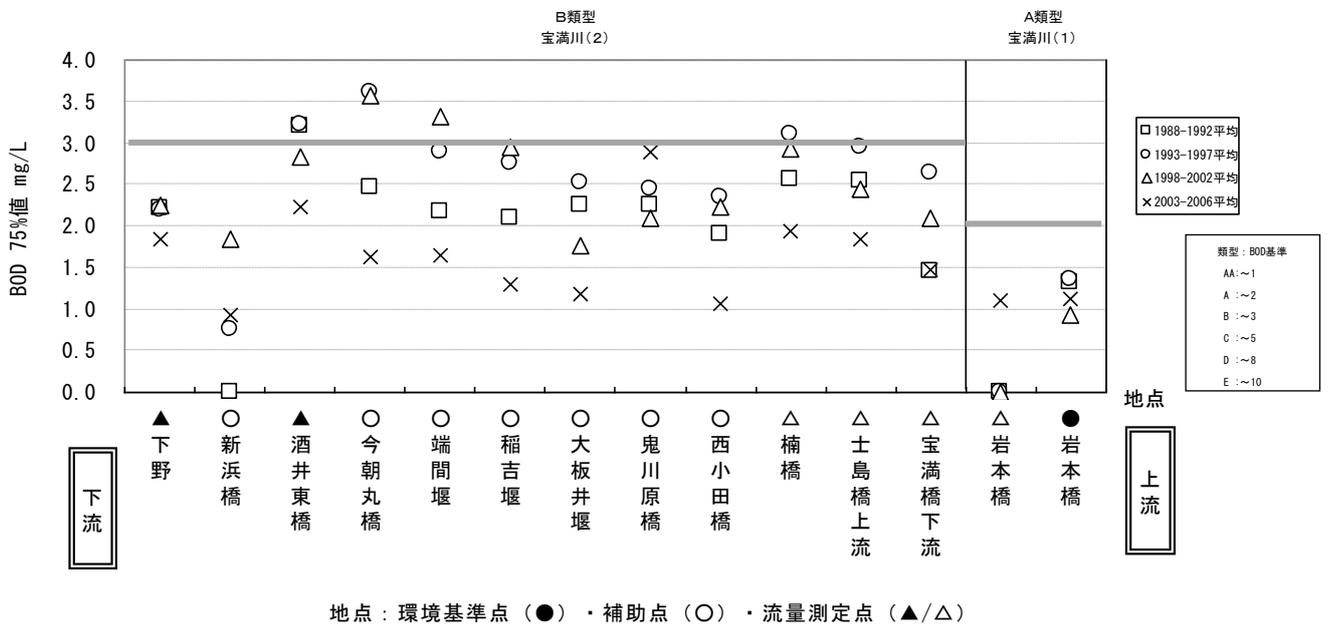
出典：公共用水域の水質測定結果



地点：環境基準点 (●)・補助点 (○)・流量測定点 (▲/△)

出典：公共用水域の水質測定結果

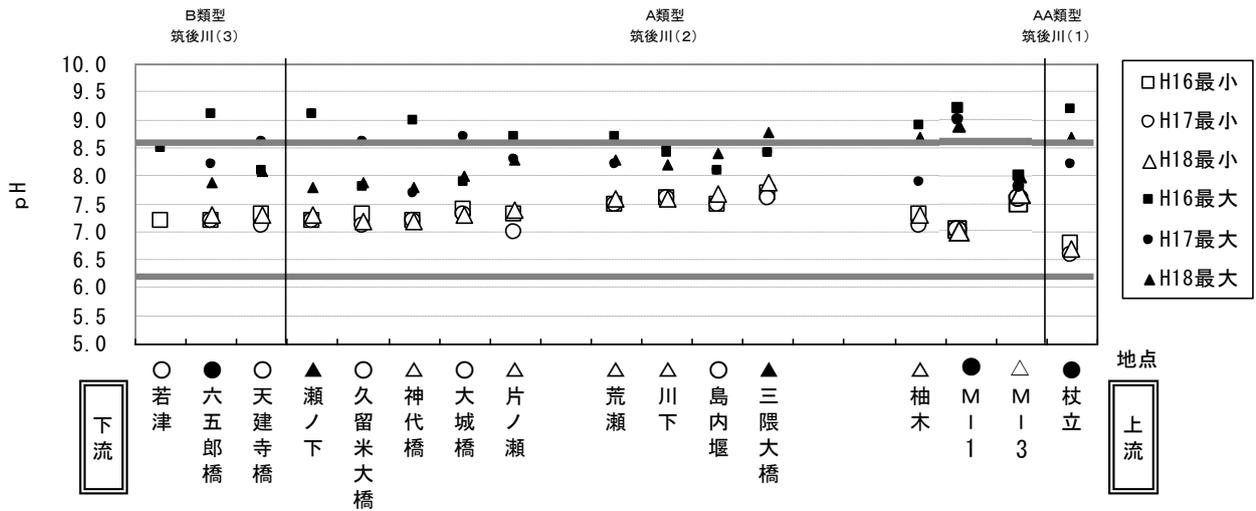
図 9.2(1) BOD75%値の縦断分布 (筑後川)



地点：環境基準点 (●)・補助点 (○)・流量測定点 (▲/△)

出典：公共用水域の水質測定結果

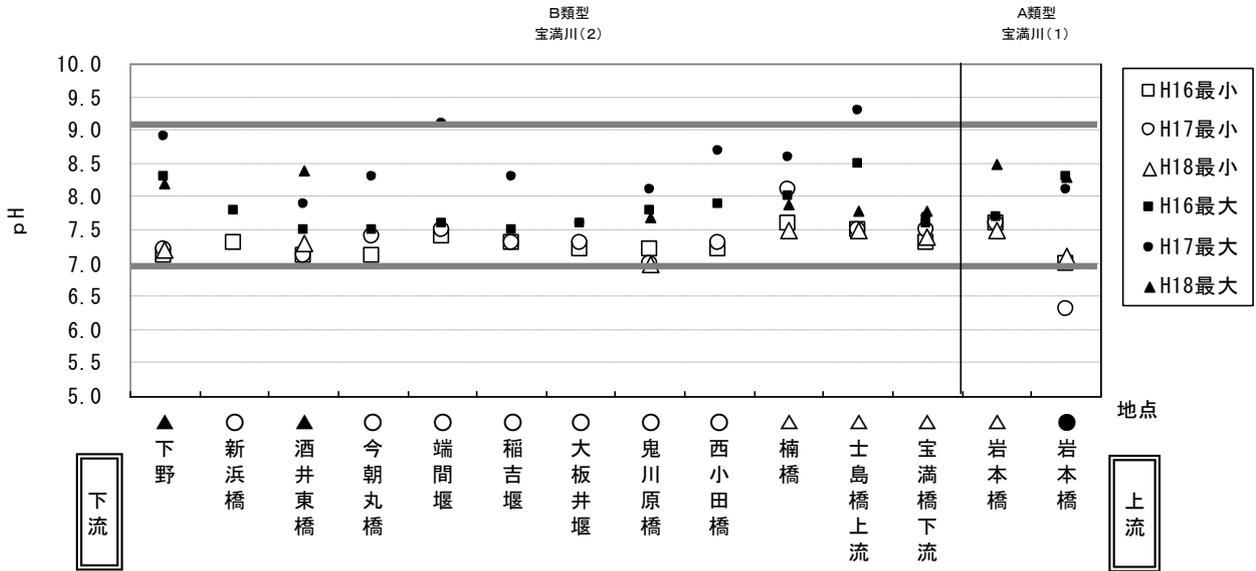
図 9.2(2) BOD75%値の縦断分布 (宝満川)



地点：環境基準点 (●)・補助点 (○)・流量測定点 (▲/△)

出典：公共用水域の水質測定結果

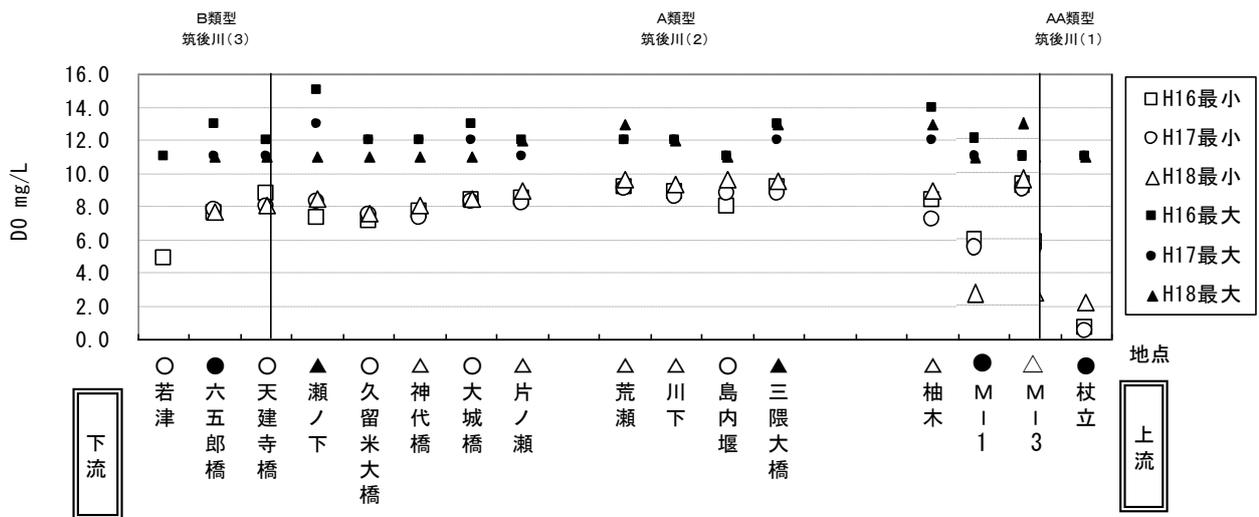
図 9.3(1) pHの縦断分布 (筑後川)



地点：環境基準点 (●)・補助点 (○)・流量測定点 (▲/△)

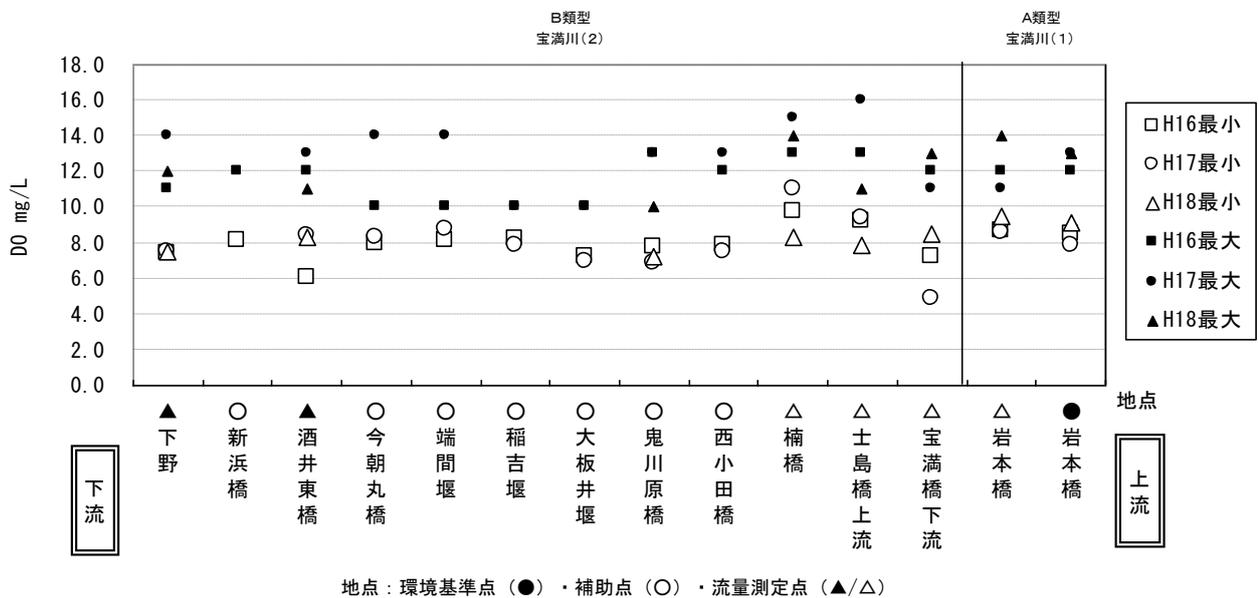
出典：公共用水域の水質測定結果

図 9.3(2) pHの縦断分布 (宝満川)



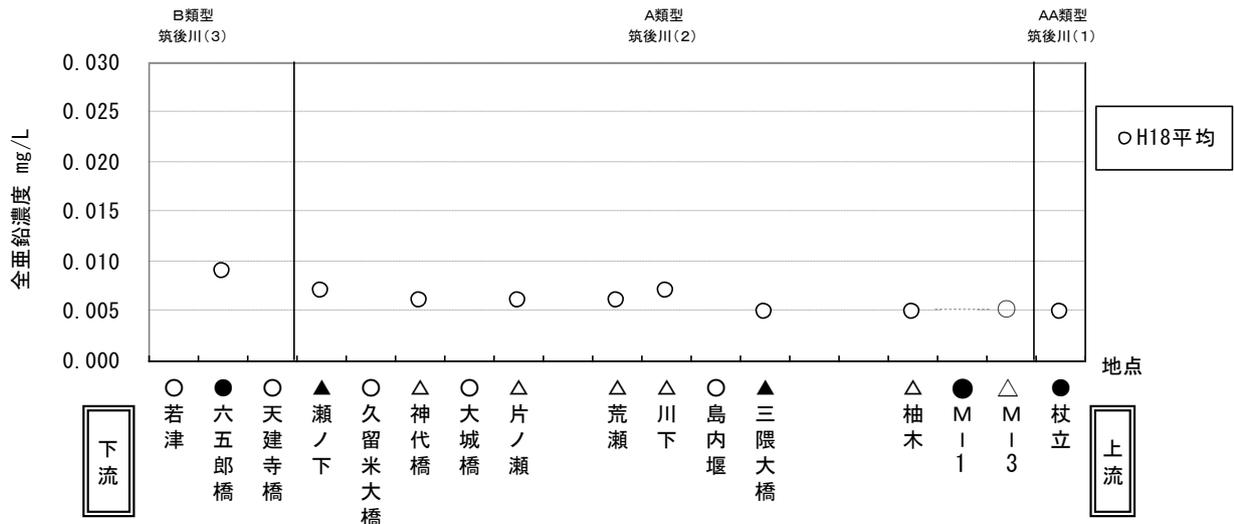
出典：公共用水域の水質測定結果

図 9.4(1) DOの縦断分布 (筑後川)



出典：公共用水域の水質測定結果

図 9.4(2) DOの縦断分布 (宝満川)

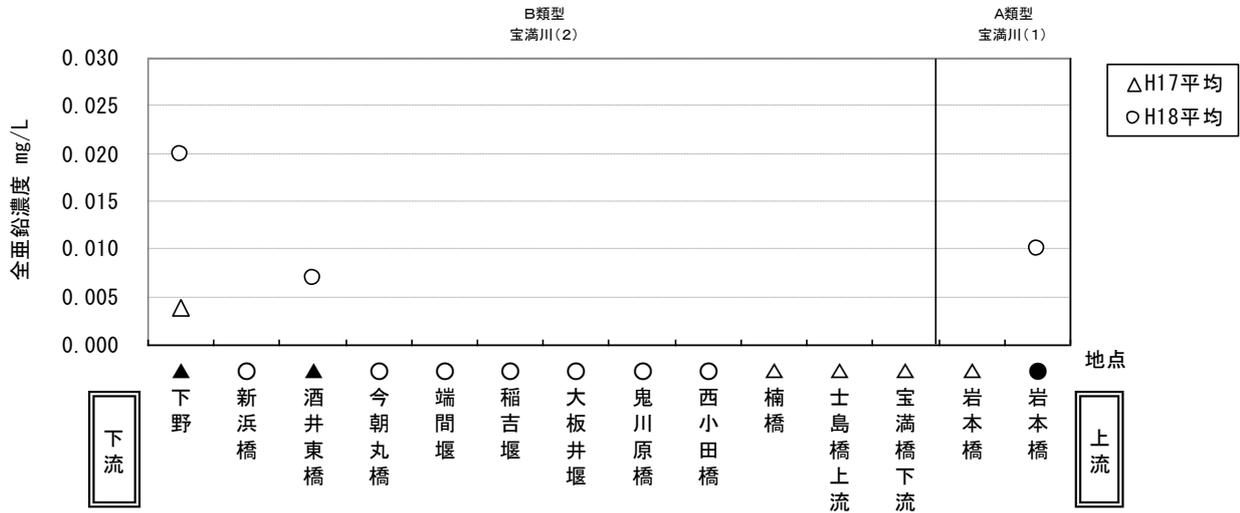


※年度平均値が<0.01、<0.03（定量下限値未満）の地点については、0.01及び0.03とみなしてプロットした。また、定量下限値が<0.05の地点のデータは除外した。

地点：環境基準点（●）・補助点（○）・流量測定点（▲/△）

出典：公共用水域の水質測定結果

図 9.5(1) 全亜鉛の縦断分布（筑後川）



※年度平均値が<0.01、<0.03（定量下限値未満）の地点については、0.01及び0.03とみなしてプロットした。また、定量下限値が<0.05の地点のデータは除外した。

地点：環境基準点（●）・補助点（○）・流量測定点（▲/△）

出典：公共用水域の水質測定結果

図 9.5(2) 全亜鉛の縦断分布（宝満川）

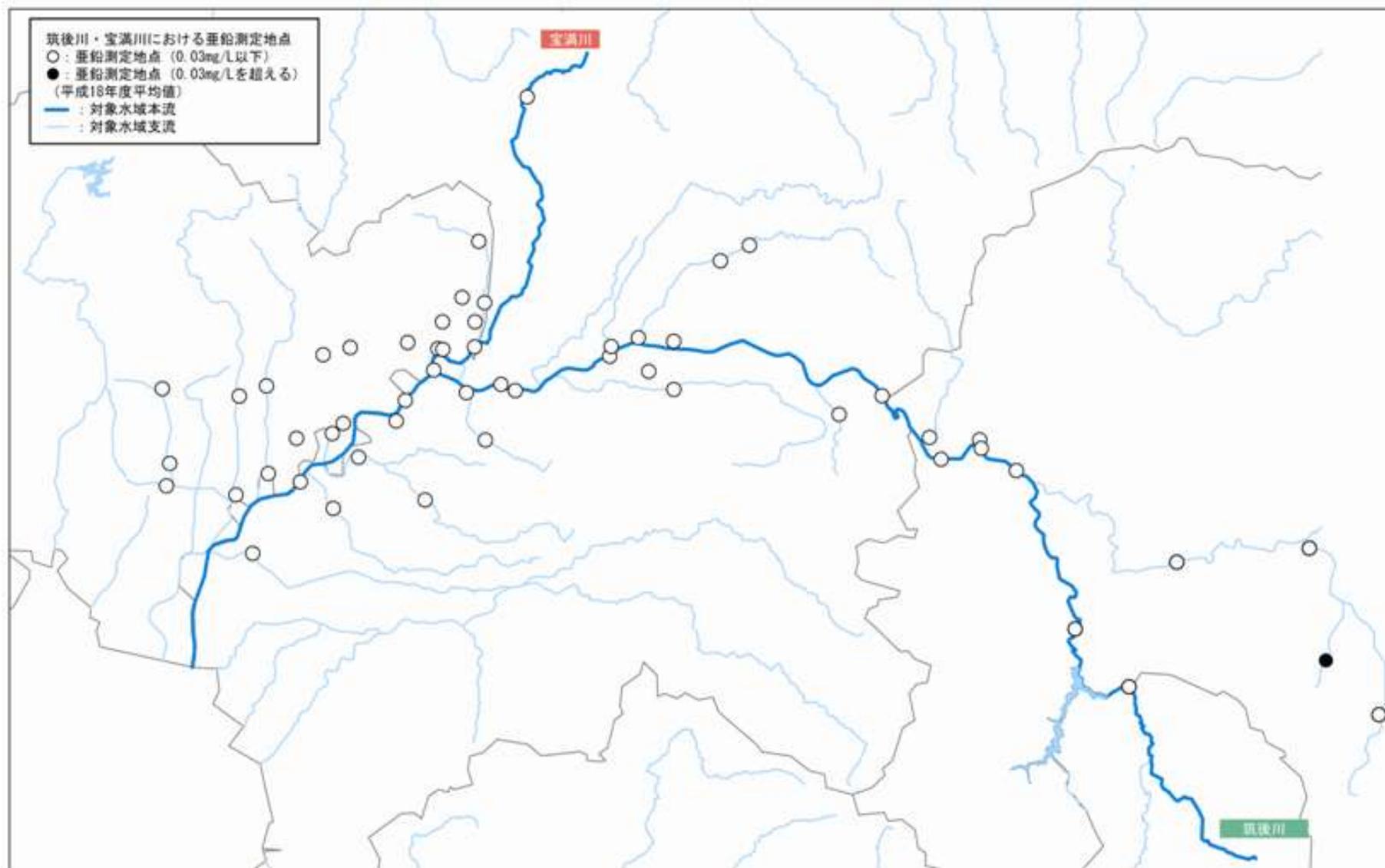


図 9.6 全亜鉛の測定地点 (筑後川・宝満川)

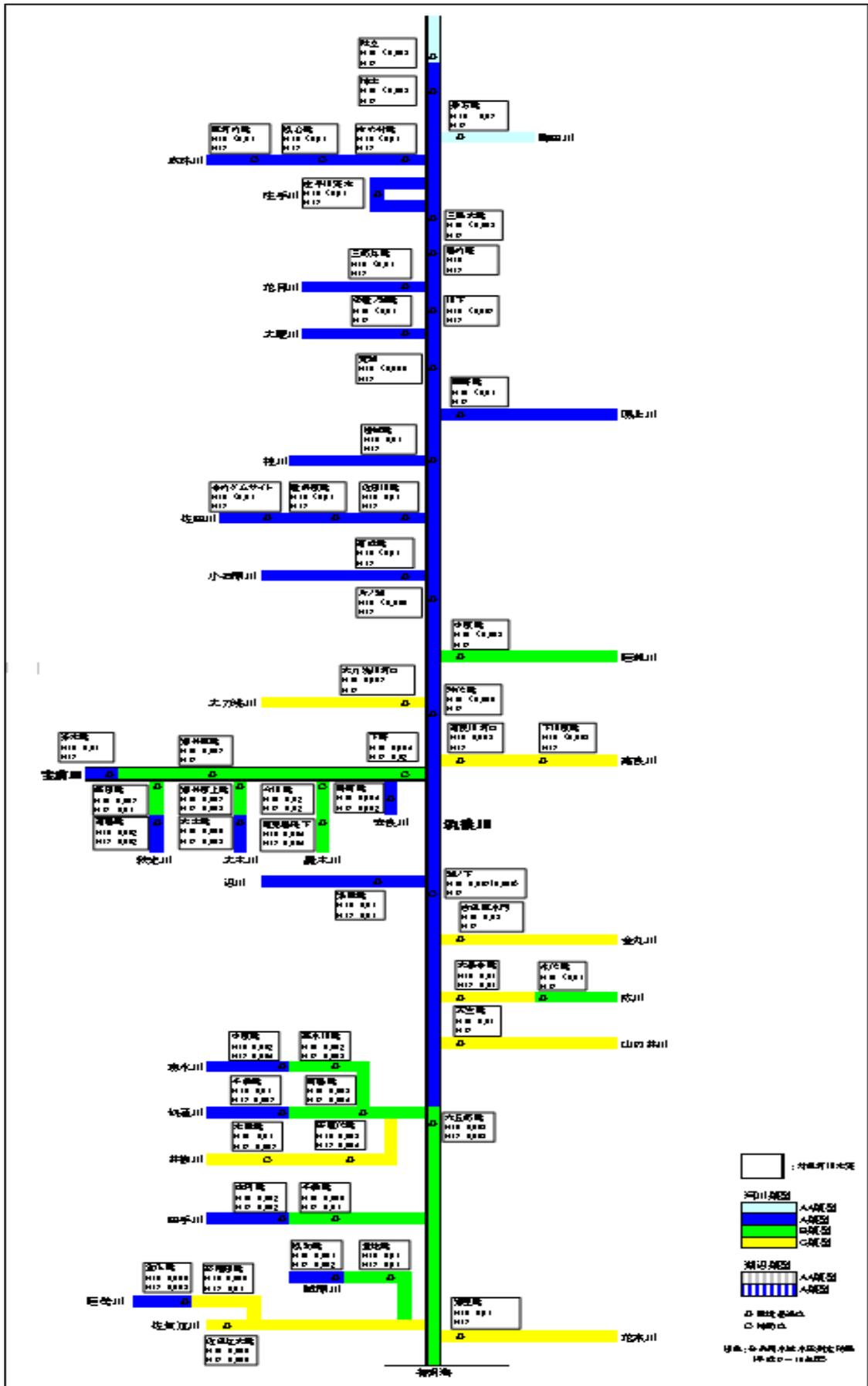
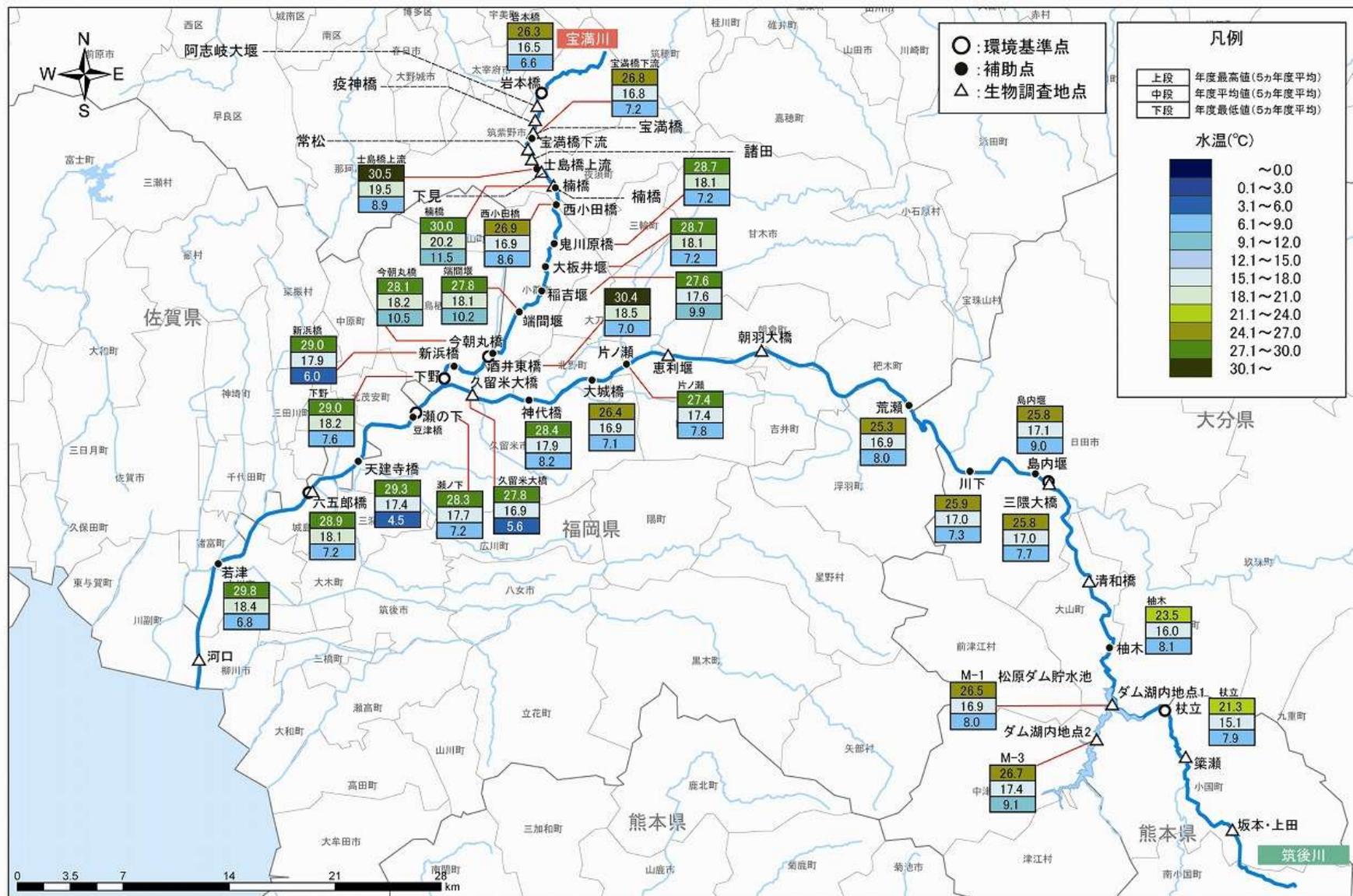
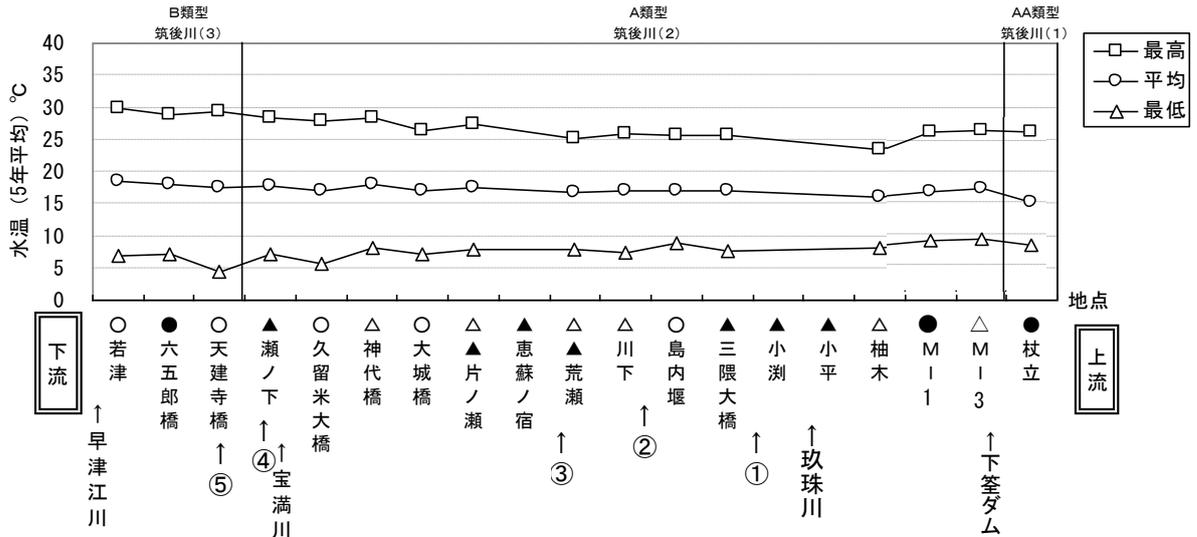


図 9.7 全亜鉛の検出状況(筑後川・宝満川)



出典：公共用水域水質測定結果(平成14～18年度)

図 9.8 水温(筑後川・宝満川)



※最高・平均・最低は、平成14～18年度の公共用水域水質測定結果より、各年度の月平均水温の年最高値・年平均値・年最低値を求め、それぞれ5年平均した値である。一部で月1回以上の頻度で計測していない地点がある。

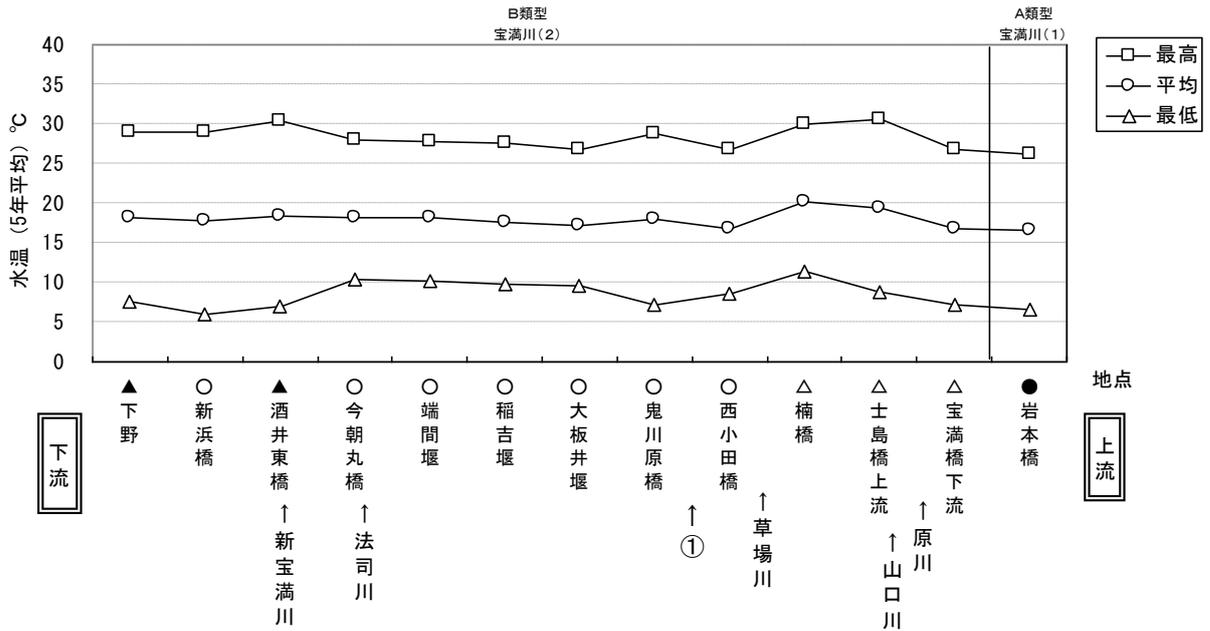
地点：環境基準点(●) ・補助点(○) ・流量測定点(▲/△)

出典：公共用水域の水質測定結果

No	都道府県名	河川	事業名	処理場名	放流水質(H16年平均)		放流量(m ³ /s)	
					水温(°C)	BOD(mg/L)	H16年	計画
①	大分県	筑後川	特環	大山ダイヤモンドプレイス	21.8	2.4	0.01	0.01
②	大分県	筑後川	公共	日田浄化センター	23.2	2.2	0.40	0.47
③	福岡県	筑後川	特環	中央浄化センター(朝倉町)	20.5	0.8	0.03	0.03
④	福岡県	筑後川	公共	中央浄化センター	24.2	5.5	0.64	0.69
⑤	福岡県	筑後川	公共	南部浄化センター	0.0	3.5	0.40	0.70

出典：(社)日本下水道協会 平成16年度版 下水道統計(行政編)より

図 9.9(1) 水温縦断分布(筑後川)



※最高・平均・最低は、平成14～18年度の公共用水域水質測定結果より、各年度の月平均水温の年最高値・年平均値・年最低値を求め、それぞれ5カ年平均した値である。一部で月1回以上の頻度で計測していない地点がある。

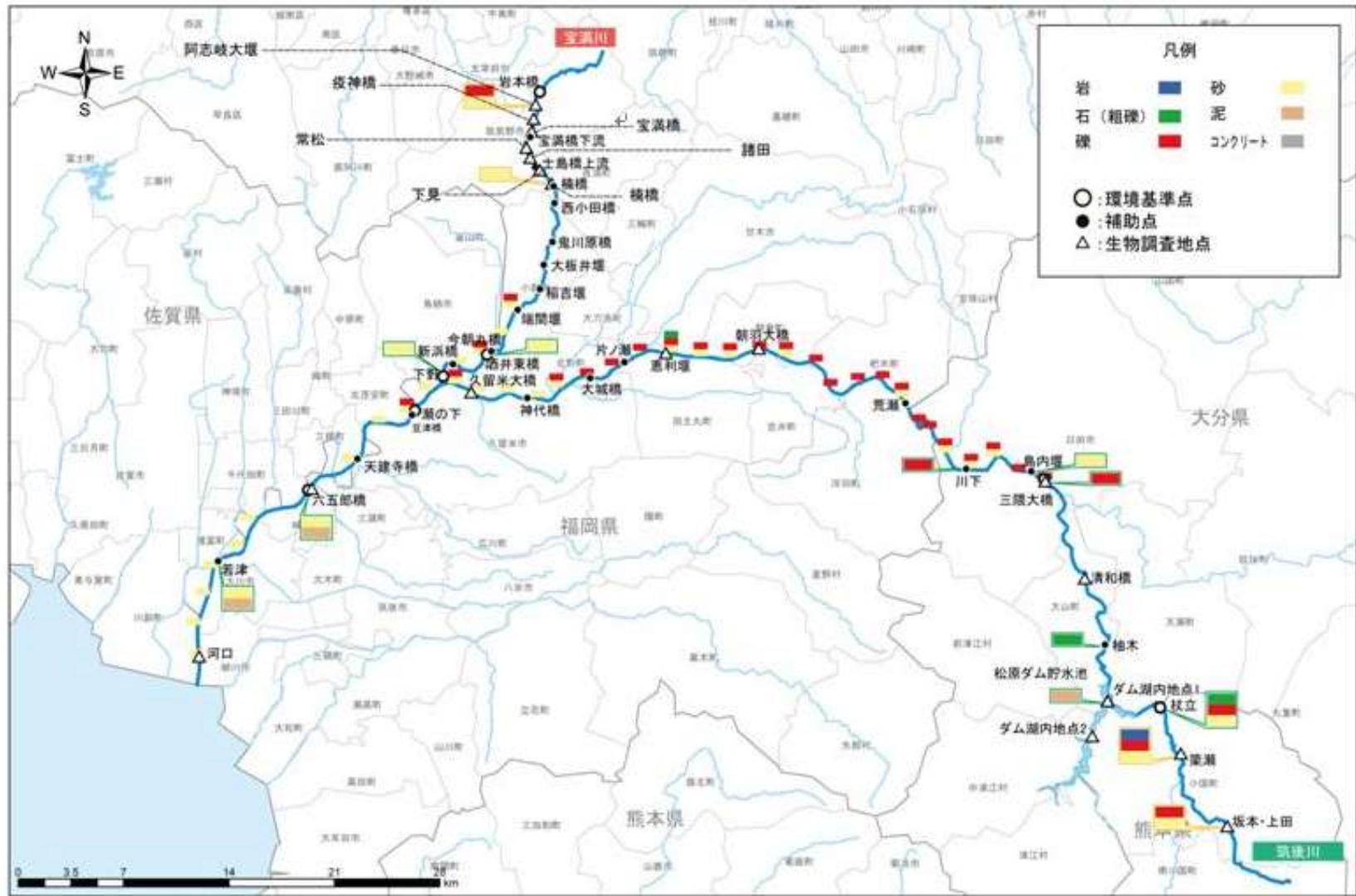
地点：環境基準点(●) ・補助点(○) ・流量測定点(▲/△)

出典：公共用水域の水質測定結果

No	都道府県名	河川	事業名	処理場名	放流水質(H16年平均)		放流量(m ³ /s)	
					水温(°C)	BOD(mg/L)	H16年	計画
①	福岡県	宝満川	流域	宝満川浄化センター	22.5	1.3	0.30	0.45

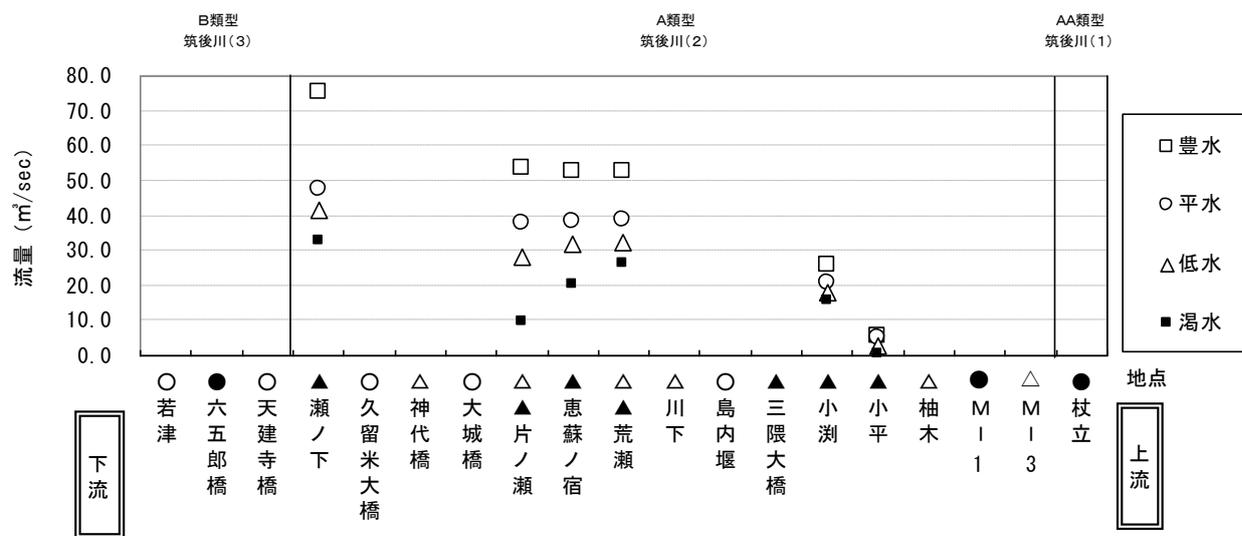
出典：(社)日本下水道協会 平成16年度版 下水道統計(行政編)より

図 9.9(2) 水温縦断分布 (宝満川)



国土交通省 平成6年度「筑後川河床材料調査業務報告書」より
 □: 環境省調査(平成14年度漁業協同組合へのアンケート結果)より
 □: 環境省調査(平成17年度漁業協同組合へのアンケート結果)より

図 9.10 河床材料図(筑後川・宝満川)



地点：環境基準点 (●)・補助点 (○)・流量測定点 (▲/△)

出典：流量年表(国土交通省河川局編, H14)

図 9.11 流量の縦断分布(筑後川・宝満川)

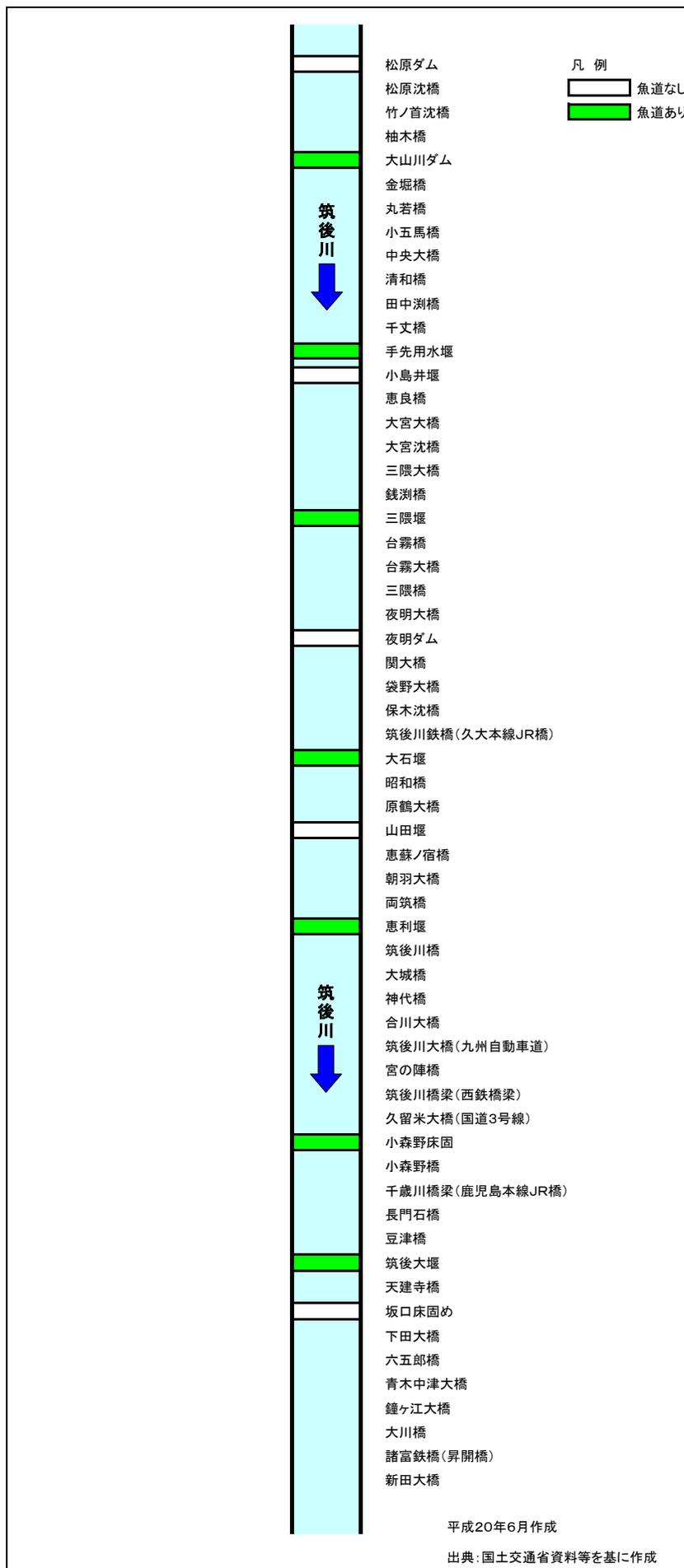


図 9.12 主な河川横断工作物 (筑後川)

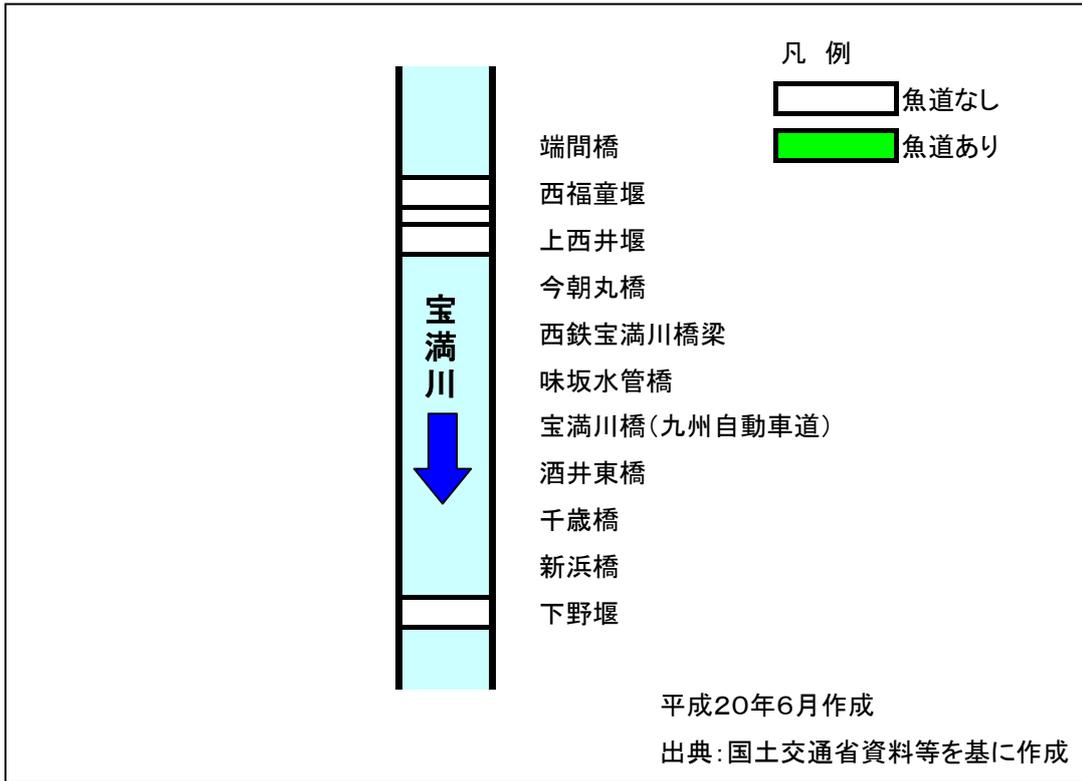


図 9.12 主な河川横断工作物（宝満川）

表 9.2(1) 魚介類の確認状況（既存調査結果1）（筑後川）

項目・分類・科・種名		調査地点													
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11			
		河口	六五郎橋	久留米大橋	恵利堰	朝羽大橋	三隈大橋	清和橋	(ダム湖内地点1) 松原ダム	(ダム湖内地点2) 松原ダム	築瀬	坂本・上田			
出典・調査時期		国土交通省 河川水辺国 勢調査	国土交通省 河川水辺国 勢調査	国土交通省 河川水辺国 勢調査	熊本県 河 川水辺国勢 調査	熊本県 河 川水辺国勢 調査									
		平成15年 度(5月・8 月・11月)	平成15年 度(7月・9 月)	平成15年 度(7月・9 月)	平成8年度 (9月)	平成8年度 (9月)									
生物A	魚類	サケ科	ニジマス												
その他	魚類	キュウリウオ科	アユ				○	○				○	○		
生物B	魚類	ウナギ科	ウナギ	○	○										
		コイ科	コイ			○				○	○				
		コイ科	フナ類(ゲンゴロウフナ)		○	○				○	○				
		コイ科	フナ類(ギンフナ)							○	○	○			
		コイ科	フナ類(Carassius属の数種)	○	○	○	○	○	○	○	○				
		コイ科	オイカワ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		コイ科	ウグイ			○	○	○	○	○	○	○			
		ナマズ科	ナマズ					○	○	○	○				
		ボラ科	ボラ	○	○										
		ハゼ科	ヨシノボリ類(オオヨシノボリ)							○	○				
		ハゼ科	ヨシノボリ類(トウヨシノボリ)		○	○				○	○				
		ハゼ科	ヨシノボリ類(カワヨシノボリ)			○	○	○	○				○		
		ハゼ科	ヨシノボリ(Rhinogobius)属の一種			○	○								
		テナガエビ科	テナガエビ		○	○	○								
		テナガエビ科	スジエビ		○	○	○				○	○			
		イワガニ科	モクスガニ		○										
		シジミ科	マジジミ		○	○	○	○	○						
		その他	魚類	アカエイ科	アカエイ	○									
				ニシン科	ヒラ	○	○								
				コノシロ科	コノシロ	○	○								
カタクチイワシ科	カタクチイワシ			○											
コイ科	ヤリタナゴ							○							
コイ科	アブラボテ					○	○	○							
コイ科	アブラボテ(Tanakia)属の一種					○									
コイ科	タイリクバラタナゴ				○	○		○							
コイ科	タイリクバラタナゴ(Rhodeus)属の数種				○	○									
コイ科	ハス				○		○				○	○			
コイ科	オイカワ(Zacco)属の一種					○									
コイ科	カワムツ											○	○		
コイ科	カワムツA型					○									
コイ科	カワムツB型								○	○					
コイ科	タカハヤ				○										
コイ科	モツゴ				○	○									
コイ科	カワヒガイ						○	○							
コイ科	ムギツク					○	○	○	○	○			○		
コイ科	タモロコ					○									
コイ科	ゼゼラ						○	○		○					
コイ科	カマツカ					○	○	○	○	○		○	○		
コイ科	ツチフキ				○		○	○							
コイ科	ニゴイ						○								
コイ科	イトモロコ					○	○	○	○	○		○			
コイ科	スゴモロコ					○			○	○					
コイ科	コウライモロコ						○				○	○			
コイ科	コイ科の一種			○	○		○								
ドジョウ科	ヤマトシマドジョウ						○		○	○					
トウゴロウイワシ科	トウゴロウイワシ			○											
カダヤシ科	カダヤシ				○										
サヨリ科	クルマサヨリ			○	○	○									
ヨウジウオ科	ヨウジウオ			○											
コチ科	コチ(マゴチ)			○											
スズキ科	スズキ			○	○										
サンフィッシュ科	ブルーギル				○			○		○	○	○			
サンフィッシュ科	オオクチバス(ブラックバス)						○	○		○	○				
ヒラギ科	ヒラギ			○	○										
マツダイ科	マツダイ			○											
ニベ科	コイチ			○											
ニベ科	シログチ			○											
ボラ科	セスジボラ			○											
ボラ科	メナダ			○	○										
ハゼ科	ドンコ					○	○	○	○				○		
ハゼ科	アカウオ			○											
ハゼ科	ワラスボ			○	○										

出典：国土交通省H13河川水辺の国勢調査、国土交通省H15年度河川水辺の国勢調査(松原ダム)

熊本県H8年度河川水辺の国勢調査(筑後川水系)、筑紫野市自然環境調査委員会筑紫野市の自然(H11年6月)

表 9.2(1) 魚介類の確認状況（既存調査結果 2）（筑後川）

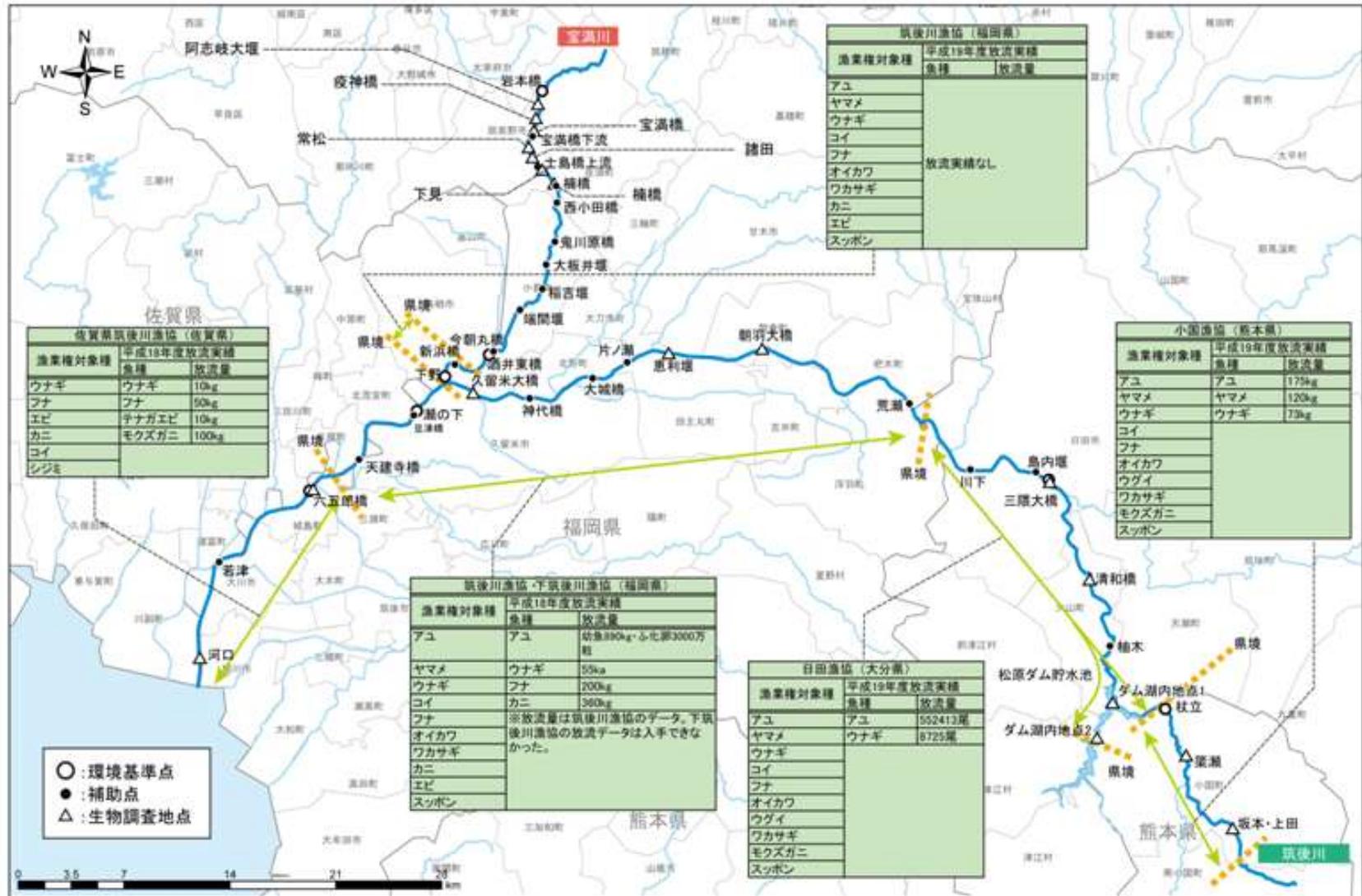
調査地点		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11		
		河口	六五郎橋	久留米大橋	恵利堰	朝羽大橋	三隈大橋	清和橋	(ダム湖内地点1) 松原ダム	(ダム湖内地点2) 松原ダム	築瀬	坂本・上田		
出典・調査時期		国土交通省 河川水辺国 勢調査	国土交通省 河川水辺国 勢調査	熊本県 河 川水辺国勢 調査	熊本県 河 川水辺国勢 調査									
		平成15年 度(5月・8 月・11月)	平成15年 度(7月・9 月)	平成15年 度(7月・9 月)	平成8年度 (9月)	平成8年度 (9月)								
項目・分類・科・種名														
その他	魚類	ハゼ科	チワラスボ	○										
		ハゼ科	ウロハゼ	○	○									
		ハゼ科	マハゼ	○	○									
		ハゼ科	ハゼクチ	○	○									
		ハゼ科	アシシロハゼ		○									
		ハゼ科	ヒナハゼ							○	○			
		ハゼ科	アベハゼ		○									
		ハゼ科	スジハゼ	○										
		ハゼ科	シモリシマハゼ	○	○									
		ハゼ科	ヌマチチブ				○	○	○	○	○			
		ハゼ科	ショウキハゼ	○	○									
		ハゼ科	ハゼ科の一種	○	○									
		アイゴ科	アイゴ	○										
		タイワンジョウ科	カムルチー				○							
		甲殻類	クルマエビ科	ヨシエビ		○								
			サクラエビ科	アキアミ		○								
			テナガエビ科	ユビナガスジエビ(フトユビスジエビ)		○								
テナガエビ科	シラタエビ			○										
その他	甲殻類	テッポウエビ科	Alpheus属の一種		○									
		ヌマエビ科	ミゾヌマエビ		○	○								
		ヌマエビ科	ミナヌマエビ			○	○	○	○					
		アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ			○	○	○						
		イワガニ科	クロベンケイガニ		○									
		イワガニ科	ヒメモズガニ		○									
		イワガニ科	ベンケイガニ		○									
		サワガニ科	サワガニ					○	○					
		軟体動物	アマオブネガイ科	ヒロクチカノガイ	○									
			リンゴガイ科	スクリンゴガイ(ジャンボタニシ)		○		○	○					
タニシ科	オオタニシ						○							
タニシ科	ヒメタニシ			○	○	○	○							
カワニナ科	カワニナ					○	○	○						
カワニナ科	チリメンカワニナ				○	○	○							
カワニナ科	Semisulcoospira属の数種				○	○	○	○						
ウミナガ科	クロヘナタリガイ		○											
タマキガイ科	マルウスラタマキガイ		○											
カワザンショウガイ科	Assiminea属の一種		○											
カワザンショウガイ科	アズキカワザンショウガイ		○											
ワカウツボ科(カワグチツボ科)	カワグチツボ		○											
ミズゴマツボ科	エドガワミズゴマツボ(ウミゴマツボ)		○											
タマガイ科	タマガイ科の一種		○											
ムシロガイ科(オリエレヨフバイ科)	アラムシロガイ		○											
オカミガイ科	オカミガイ		○											
モノアラガイ科	ヒメモノアラガイ			○										
サカマキガイ科	サカマキガイ		○	○	○	○	○	○						
ヒラマキガイ科	ヒラマキガイモドキ			○				○						
フネガイ科	サルボウガイ		○											
イガイ科	コケガラスガイ		○											
インガイ科	トフガイ(姉イ、ヌマイ)						○							
インガイ科	インガイ				○	○			○					
シジミ科	シジミ(Corbicula)属の一種				○	○								
コウイカ科	シリヤケイカ		○											
ジンドウイカ科	ベイカ		○											
ジンドウイカ科	ジンドウイカ科の一種		○											

出典：国土交通省H13河川水辺の国勢調査、国土交通省H15年度河川水辺の国勢調査(松原ダム)

熊本県H8年度河川水辺の国勢調査(筑後川水系)、筑紫野市自然環境調査委員会筑紫野市の自然(H11年6月)

表 9.2(2) 魚介類の確認状況（既存調査結果）(宝満川)

項目・分類・科・種名		調査地点		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
		出典・調査時期		(橋橋橋)	下見	諸田	常松	宝満橋	疫神橋	(阿志岐大堰)	吉木	上吉木	大石	袖須原・本道寺
		筑紫野市筑紫野市の自然	福岡県河川水辺の国勢調査	筑紫野市筑紫野市の自然	福岡県河川水辺の国勢調査	筑紫野市筑紫野市の自然	筑紫野市筑紫野市の自然	筑紫野市筑紫野市の自然						
生物B	魚類	コイ科	コイ		○	○								
		コイ科	ギンブナ		○									
		コイ科	フナ類(フナ属の一種)	○		○	○		○	○				
		コイ科	オイカワ	○	○	○	○	○	○	○				
		ドジョウ科	ドジョウ		○									
		ナマズ科	ナマズ	○	○	○	○	○						
		ハゼ科	トウヨシノボリ		○					○				
		ハゼ科	ヨシノボリ類		○	○	○	○						
	甲殻類	テナガエビ科	テナガエビ		○									
		テナガエビ科	スジエビ		○									
	貝類	シジミ科	マンジミ							○				
その他	魚類	コイ科	バラタナゴ(Rhodeus)属の一種	○	○			○		○				
		コイ科	カワムツ	○				○	○	○	○	○	○	○
		コイ科	カワムツB型		○						○			
		コイ科	モツゴ	○	○									
		コイ科	ムギツク		○			○	○	○	○	○		
		コイ科	カマツカ	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		コイ科	ツチフキ		○									
		コイ科	イトモロコ		○			○	○	○				
		コイ科	タカハヤ		○					○	○	○	○	○
		ドジョウ科	ヤマトシマドジョウ		○					○				
		ドジョウ科	シマドジョウ							○				
		メダカ科	メダカ	○	○	○		○	○					
		スズキ科	オヤニラミ					○		○	○			
		サンフィッシュ科	ブルーギル	○										
		ボラ科	メナダ											
		ハゼ科	ドンコ	○	○			○	○	○		○	○	
		タイワンドジョウ科	カムルチー		○									
	甲殻類	スマエビ科	ミナミスマエビ		○					○				
		アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ		○					○				
	貝類	リシヨガイ科	スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)	○	○					○				
		タニシ科	ヒメタニシ		○					○				
		カワニナ科	カワニナ		○					○				
		イシガイ科	イシガイ		○					○				
		モノアラガイ科	モノアラガイ		○					○				
		サカマキガイ科	サカマキガイ							○				



出典: 福岡県、熊本県、大分県資料・平成18年度ヒアリング調査・平成19年度ヒアリング調査より

図 9.14 漁業権設定・魚類等放流状況(筑後川・宝満川)

表 9.3(1) 魚介類生息状況に関する学識者や漁業関係者へのヒアリング結果の整理（筑後川）

項目	ヒアリング結果（回答機関名）		
	上流	中流	下流
魚介類の生息範囲	<ul style="list-style-type: none"> 代表的及び特徴的な魚介類としてヤマメ・アユ・コイ・ウグイ・ハヤ・ウナギ等があげられる（小国町漁協）。 イワナ・ヤマメ類は宇土橋付近から上流に生息している（小国町漁協）。 コイ・フナ類は大分県境（杖立）から黒川温泉付近まで生息している（小国町漁協）。 	<ul style="list-style-type: none"> 代表的及び特徴的な魚介類としてアユがあげられる（日田漁協）。 イワナ・アマゴ類は自然に生息していない（日田漁協）。 コイ・フナ類は中流全域に生息している（日田漁協）。 	<ul style="list-style-type: none"> 代表的及び特徴的な魚介類としてアユ・オイカワ・コイ・フナ・モクズガニ・スッポン・ウグイ等があげられる（筑後川漁協、佐賀県筑後川漁協）。 イワナ・アマゴ等は本流内には生息していない（九州大学、筑後川漁協、佐賀県筑後川漁協）。 コイ・フナ類は下流全域に生息している（筑後川漁協、佐賀県筑後川漁協）。
産卵場・幼稚仔魚の生育場	<ul style="list-style-type: none"> 禁漁区⑤（小国町大字下城字湯鶴県境より上流ゆかだ淵まで）、禁漁区⑦（小国町大字下城湯鶴ゆかだ淵より宮原土田滝まで）、禁漁区⑥（小国町大字宮原佐藤精米所堰から上流上町どろ淵まで）、禁漁区①（小国町大字上田字坂本堰より上流赤とうぐうまで）が産卵場と考えられる（小国町漁協）。 	<ul style="list-style-type: none"> 把握していない（日田漁協）。 	<ul style="list-style-type: none"> 片の瀬～恵利堰の前後はアユの産卵場として重要である（筑後川漁協）。 本流内に人工産卵床を3箇所程毎年設置しているが、場所は毎年河川状況に応じて異なる（筑後川漁協）。 筑後大堰～坂口床固の間はエツやクルマサヨリの産卵場、さらに下流域はアリアケシラウオ等の産卵場として重要である（佐賀県筑後川漁協）。
魚介類等資源の保全	<ul style="list-style-type: none"> ヤマメ・アユ・ウナギ等を放流している（小国町漁協）。 	<ul style="list-style-type: none"> アユ・ウナギ・スッポン、ニジマス等を放流している（日田漁協）。 	<ul style="list-style-type: none"> アユ・ウナギ・モクズガニ・フナ等を放流している（筑後川漁協、佐賀県筑後川漁協）。
河川環境	<ul style="list-style-type: none"> 流域内にダムは設置されていない（小国町漁協）。 	<ul style="list-style-type: none"> 筑後川大堰、恵利堰、夜明ダム等があり、魚道も設置されているが、その効果はあまりみられない（日田漁協）。 	<ul style="list-style-type: none"> 筑後川大堰があるため、アユ等遡川魚類の遡上阻害となっている（九州大学、筑後川漁協、佐賀県筑後川漁協）。

表 9.3(2) 魚介類生息状況に関する学識者や漁業関係者へのヒアリング結果の整理（宝満川）

項目	ヒアリング結果(回答機関名)
	全域
魚介類の生息範囲	<ul style="list-style-type: none"> ・代表的及び特徴的な魚介類としてアユ・オイカワ・コイ・フナ・モクズガニ・スッポン・ウグイ等があげられる（筑後川漁協）。 ・イワナ・アマゴ等は本流内には生息していない（筑後川漁協）。 ・コイ・フナ類はほぼ全域に生息している（筑後川漁協）。 ・アユ・ウナギ・モクズガニ・フナ等は漁業権内（酒井東橋付近から下流）に放流しているので、当該区域に分布している（筑後川漁協）。
産卵場・幼稚仔魚の生育場	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし（筑後川漁協）。
魚介類等資源の保全	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業権内（酒井東橋付近から下流）にアユ・ウナギ・モクズガニ・フナ等を放流している（筑後川漁協）。
河川環境	<ul style="list-style-type: none"> ・細かい堰がいくつか存在するが、魚道はないと思われる（筑後川漁協）。